

# 京都市内遺跡試掘調査報告

令和2年度

2021年3月

京 都 市 文 化 市 民 局



大宅廃寺瓦窯跡の現存する西側丘陵部 全景（東から）



現存の窯体（南から）

巻頭図版2 大宅廃寺瓦窯跡



現存の窯体とその周辺の地層（南東から）



A・B地点 断面（南東から）



# 本文目次

I	試掘調査の概要	1
II	平安宮	3
1	太政官朝所跡・聚楽遺跡（上京区千本通二条下る主税町 1030）	3
III	平安京左京	6
1	四条一坊三町跡（中京区壬生御所ノ内町 13）	6
2	四条三坊十五町跡，烏丸御池遺跡（中京区六角通烏丸東入堂之前町 234）	10
3	九条三坊八町跡，烏丸町遺跡（南区東九条室町 48）	18
IV	平安京右京	21
1	一条三坊十四町跡（右京区花園糞南町 17-2，17-4）	21
2	三条二坊五・十二町跡，御土居跡，西ノ京遺跡（中京区西ノ京北小路町）	24
3	七条二坊七町跡，西市跡，衣田町遺跡（下京区西七条西石ヶ坪町 71，72，73-2）	27
V	そのほか市内遺跡	30
1	白河南殿跡，白河街区跡（左京区聖護院蓮華藏町 44-3）	30
2	法勝寺跡，白河街区跡，岡崎遺跡（左京区岡崎法勝寺町）	33
3	史跡 南禅寺境内（左京区南禅寺福地町 86）	36
4	寺町旧域（下京区四条通寺町東入御旅町 35）	39
5	大宅庵寺瓦窯跡（山科区大宅向山 14-1，14-2，14-3）	42
6	長岡京左京一条三坊十三町跡，東土川遺跡（南区久世東土川町 331）	47
7	長岡京左京三条四坊十二町跡・四條四坊九町跡・三条大路跡（伏見区久我西出町 13-17， 13-18）	49
VI	試掘調査一覧表	53
	報告書抄録	65

# 図版目次

- 巻頭図版 1 大宅廃寺瓦窯跡 上 大宅廃寺瓦窯跡の現存する西側丘陵部 全景（東から）  
下 現存の窯体（南から）
- 巻頭図版 2 大宅廃寺瓦窯跡 上 現存の窯体とその周辺の地層（南東から）  
下 A・B地点 断面（南東から）

図版 1 平安宮

図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊

図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊

図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊

図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊

図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊

図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊

図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊

図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊

図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊

図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊

図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊

図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊

図版 14 草木町遺跡・上ノ段町遺跡・多藪町遺跡・森ヶ東瓦窯跡・和泉式部町遺跡・史跡・名勝  
嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡・嵯峨遺跡

図版 15 史跡仁和寺御所跡・中の谷窯跡・上賀茂中山町遺跡・小野瓦窯跡・史跡賀茂別雷社境内  
史跡大徳寺境内・北野廃寺跡・北野遺跡・一乗寺向畑町遺跡

図版 16 世尊寺跡・上京遺跡・室町殿跡（花の御所）・公家町遺跡・史跡聖護院旧仮皇居・白河街  
区跡・白河北殿跡・白河南殿跡・岡崎遺跡・法興院跡・史跡南禅寺境内・粟田口窯跡・  
六波羅政庁跡・方広寺跡・寺町旧域・法勝寺跡

図版 17 法性寺跡・鳥部（辺）野・大宅遺跡・大宅廃寺・大宅廃寺瓦窯跡・がんせんどう廃寺・  
中臣遺跡・御土居跡・深草遺跡・番神山古墳

図版 18 史跡醍醐寺境内・鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡

図版 19 伏見城跡・桃陵遺跡

図版 20 長岡京跡・東土川遺跡・久我東町遺跡

図版 21 長岡京跡・淀水垂大下津町遺跡・與杼神社旧境内・富ノ森遺跡・淀城跡

図版 22 上久世遺跡・中久世遺跡・市指定名勝浄住寺の庭・浄住寺跡（谷之堂）・周山廃寺

図版 23 Ⅲ - 2 平安京左京四条三坊十五町跡他

図版 24 V - 5 大宅廃寺瓦窯跡 (1)

図版 25 V - 5 大宅廃寺瓦窯跡 (2)

図版 26 V - 5 大宅廃寺瓦窯跡 (3)

## 挿 図 目 次

図 1 調査地区割図	i
試掘調査の概要	
図 2 年次別・地区別試掘調査実施件数	1
平安宮太政官朝所跡, 聚衆遺跡	
図 3 調査位置図	3
図 4 調査区配置図	3
図 5 調査区断面図	4
図 6 出土遺物実測図	5
平安京左京四条一坊三町跡	
図 7 調査位置図	6
図 8 調査区断面図	7
図 9 調査区位置図	8
図 10 出土遺物実測図	10
平安京左京四条三坊十五町跡, 烏丸御池遺跡	
図 11 調査位置図	10
図 12 調査区設定図	10
図 13 調査区東壁断面図	12
図 14 第 1 面平面図	14
図 15 第 2 面平面図	15
図 16 遺物実測図	16
図 17 調査成果接合図	17
平安京左京九条三坊八町跡, 烏丸町遺跡	
図 18 調査位置図	18
図 19 調査区配置図	18
図 20 1・2 区南壁断面図	19
図 21 出土遺物実測図	20
平安京右京一条三坊十四町跡	
図 22 調査位置図	21

図 23 調査区配置図	21
図 24 3区平・断面図	22
図 25 出土遺物実測図	22
図 26 3区遺構検出状況写真(東から)	22
平安京右京三条二坊五・十二町跡, 御土居跡, 西ノ京遺跡	
図 27 調査位置図	24
図 28 計画範囲図	25
図 29 1～10区 調査区配置図	25
図 30 1・2・4～8・9・10区 土層断面図	26
図 31 3区 平・断面図	26
図 32 柱穴1検出状況(南から)	26
図 33 柱穴1須恵器出土状況(南東から)	26
平安京右京七条二坊七町跡, 西市跡, 衣田町遺跡	
図 34 調査位置図	27
図 35 調査地点位置図	27
図 36 試掘調査区平・断面図	28
図 37 詳細分布調査地点断面図	29
図 38 C地点壁断面(南東から)	29
図 39 E地点壁断面(北東から)	29
白河南殿跡, 白河街区跡	
図 40 調査位置図	30
図 41 調査地点位置図	30
図 42 遺構面検出状況(南から)	30
図 43 遺構平・断面図	31
図 44 遺構接合図	32
法勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡	
図 45 調査位置図	33
図 46 1区平・断面図	34
図 47 遺構検出状況(北西から)	35
図 48 1区斯割断面(西から)	35
史跡 南禅寺境内	
図 49 調査位置図	36
図 50 調査地点位置図	36
図 51 調査区平・断面図	37
図 52 調査区全景(北東から)	38



図 53 攪乱東壁（北西から）	38
寺町旧域	
図 54 調査位置図	39
図 55 調査区配置図	39
図 56 調査区断面図	40
図 57 出土遺物実測図	41
大宅廃寺瓦窯跡	
図 58 調査地周辺の遺跡	42
図 59 調査位置図	42
図 60 調査区配置図	43
図 61 A・B 地点西壁断面 柱状図	43
図 62 C・D 地点西壁断面 断面図・柱状図	44
図 63 E 地点断面図	44
図 64 大宅廃寺瓦窯跡 窯体平面・断面図	45
図 65 表採軒丸瓦	45
図 66 表採軒平瓦	45
図 67 大宅廃寺瓦窯跡 窯体平面・断面図	46
長岡京左京一条三坊十三町跡, 東土川遺跡	
図 68 調査位置図	47
図 69 調査区配置図	47
図 70 調査区平・断面図	48
図 71 出土遺物実測図	48
長岡京左京三条四坊十二町・四条四坊九町・三条大路跡	
図 72 調査位置図	49
図 73 調査区配置図	49
図 74 1 区平面・東壁断面図	50
図 75 各調査区東壁断面図	51
図 76 周辺調査成果と調査地	51
図 77 三条大路北側溝（断面 2）（西から）	51

## 表 目 次

表 1 出土遺物概要表	52
-------------	----

# I 試掘調査の概要

## 1 京都市内の埋蔵文化財行政

京都市で所管する周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡という。）は、令和2年7月に実施した遺跡地図の改訂を経て、827件を数える。その範囲内でおこなわれる土木工事に対しては、遺跡の重要度と工事規模に応じて「慎重工事」・「詳細分布調査」・「試掘調査」・「発掘調査」の4種の行政指導をおこなっている。この指導業務は、当初、文化財保護課がおこない、昭和55年の京都市埋蔵文化財調査センター設立以後はセンターが担当してきた。しかし、センターが平成18年4月1日付けで文化財保護課と統合され、現在は文化財保護課埋蔵文化財係が担当している。

行政指導に基づいて実施される調査には、国庫補助による調査と原因者負担による調査があるが、詳細分布調査と試掘調査、発掘調査の一部については国庫補助事業として実施している。このうち、詳細分布調査と発掘調査は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下、「埋文研」という。）へと委託してきたが、平成26年4月1日から、文化財保護課埋蔵文化財係が担当しており、その成果は、別冊の報告書により報告される。

本報告書は、令和2年1月～12月に文化財保護課が実施した、国庫補助事業による試掘調査をとりまとめたものである。文化財保護課で実施する試掘調査は、届出や通知を受けた工事予定地内における遺跡の有無、あるいは遺跡の残存状況やその範囲を把握し、遺跡が良好に存在し、工事がその遺跡を破壊する場合には発掘調査を指導し、設計変更などにより遺跡の保護が可能であれば開発者に対して遺跡保護の措置を指示するなど、文化財保護行政上、非常に重要な業務であり、現在は9名の技師が常時、従事している。

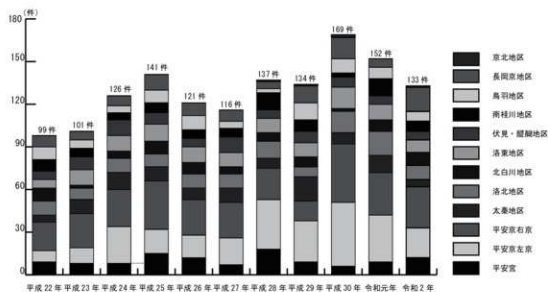


図2 年次別・地区別試掘調査実施件数

令和2年1月～12月に文化財保護法に基づいて提出された届出(文化財保護法第93条)・通知(同法第94条)件数は、総数で1,633件になる。前年比では8件(0.5%)の減少で、現状維持が続く。新型コロナウイルスによる社会不安の中であったが、ホテル建設が落ち着いたことこれまで抑え気味であった共同住宅建築が一定数あったこと、個人住宅が好調だったことなどから依然高い建築件数を維持している。これらの届出・通知に対して、文化財保護課は発掘調査9件(前年17件, 47.1%減) 試掘調査139件(同157件, 11.5%減)、詳細分布調査644件(前年609件, 5.7%増)、慎重工事840件(同861件, 2.5%減)の指導をおこなった。

このうち試掘調査の実施件数は133件で、地区ごとに見ると、平安宮域12件、平安京左京域21件、平安京右京域29件、太秦地区5件、洛北地区10件、北白川地区9件、洛東地区9件、伏見・醍醐地区6件、南桂川地区7件、烏羽地区7件、長岡地区17件、京北地区1件であった。左京・太秦・洛北地域が特に減少している。大型ホテル建設などの減少によるものだろう。

## 2 令和2年1月～12月の試掘調査概要

試掘調査133件のうち21件(V章・試掘調査一覧表参照)については発掘調査を指示した。発掘調査は埋文研が7件(No.53, 59, 63, 65, 83, 106, 114)、株式会社文化財サービスが7件(No.4, 10, 47, 51, 66, 67, 129)、古代文化調査会が2件(No.5, 98)、関西文化財調査会が1件(No.58)、の計17件が現在実施され、4件が現在協議中である。

発掘調査で顕著な成果があったのは、中国吉州窯産の天目椀が出土したNo.10、淳和院跡内で9世紀の溝を確認したNo.58、河川化した西堀川小路の変遷を確認したNo.66、伏見城内で大規模な造成を検出しているNo.106、富ノ森で中世集落の動向を調査しているNo.114などである。また、今年度より前の試掘調査ではあるが、京都御苑内で京都新城跡の石垣を検出した17H330や二条城の北側で京都所司代跡や冷然院跡の各遺構を検出し、大炊御門大路南側溝の一部が運河状に深く幅広く掘削されていたことを発見した19H473なども試掘後協議を経て本年実施された発掘調査のうち大きな成果を得たものである。

ほかに工事の掘削深度が試掘調査で確認した遺構面より十分に浅いため、または設計や工法の変更により当面の保存が図られたなどの理由から、発掘調査に至らなかった例が9件(No.37・38・48・49・84・85・86・100・117)ある。また、保存措置が講じられなかったものの報告すべき成果のあった調査が10件(No.13・19・30・43・52・94・96・102・115・126)、計画段階で試掘調査を行い協議中であるが報告すべき成果のあったもの2件(No.42・55)、発掘調査の補足成果となるもの1件(No.10)について詳細を報告する。

(赤松 佳奈)

## II - 1 平安宮太政官朝所跡，聚楽遺跡

No.30 (20K118)

### 1 調査に至る経緯

調査地は、二条公園より美福通を隔てた西側に位置する。平安宮の復原では、太政官の北東部に相当し、朝所およびこれに付随する北曹司・厨が比定される区画にあたる。朝所は、参議以上が儀式等の後、会食(宴)を行ったとされる殿舎であるとともに、皇族の方違えに用いられたことでも知られる施設である(『中務内侍日記』『枕草子』等)。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、試掘調査を実施した。

周辺では、発掘調査及び試掘調査、詳細分布調査が複数行われている。このうち調査地より南に20m隔てた区画(図3①)では、昭和54年度の発掘調査において、朝所の南限と推定される東西溝が検出されている。また、北西へ30m隔てた区画(図3②)では、昭和63年度の発掘調査において朝所の北限(=太政官の北限)と推定される築地跡と築地外溝が検出されている。このほか、昭和55年度に調査地の北を通る市道内で実施された立会調査では、土器片と炭化物を多量に含む土坑が複数確認されており、朝所の厨に関連する遺構である可能性が指摘されている(図3④)。

以上のことから、今回の調査地内においても関連する遺構の存在が予測された。

### 2 調査成果(図4～6)

調査区は対象地の形状に合わせて逆L字形に

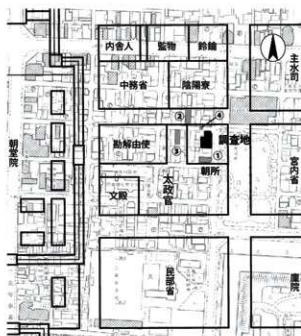
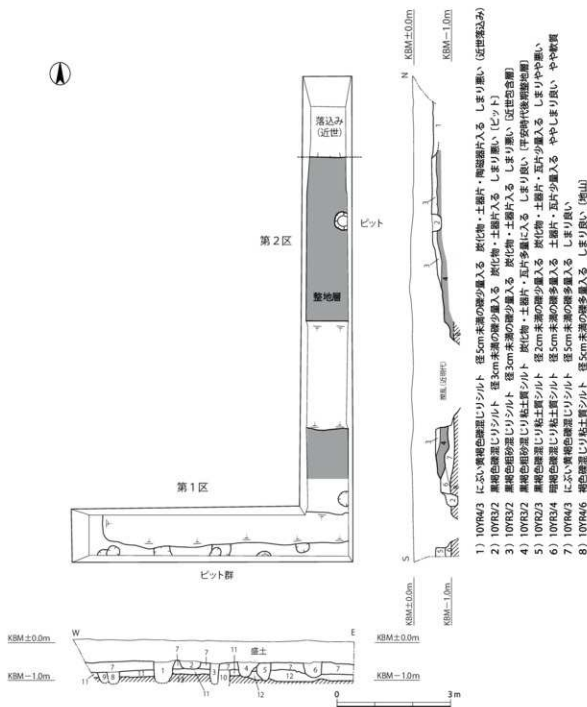


図3 調査位置図(1:5,000)



図4 調査区配置図(1:400)



- 1) 10YR4/3 にふい黄褐色礫混じり粘土質シルト 径5cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり悪い(ビット)
- 2) 10YR4/3 にふい黄褐色礫混じり粘土質シルト 径3cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり悪い(土坑)
- 3) 10YR4/3 にふい黄褐色礫混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり悪い(ビット)
- 4) 10YR3/3 暗褐色礫混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり悪い(ビット)
- 5) 10YR4/3 にふい黄褐色礫混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり悪い(ビット)
- 6) 10YR4/2 灰黄褐色礫混じり粘土質シルト 径2cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり悪い(ビット)
- 7) 10YR3/3 暗褐色礫混じり粘土質シルト 径5cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまりやや悪い(包含層)
- 8) 10YR4/2 灰黄褐色細砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまりやや悪い(ビット)
- 9) 10YR3/2 黒褐色細砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまりやや悪い(ビット)
- 10) 10YR3/3 暗褐色細砂混じりシルト 径3cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまりやや悪い(ビット)
- 11) 10YR3/4 暗褐色細砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・土器片入る しまり良い やや軟質(整地層)
- 12) 10YR3/4 暗褐色礫混じり粘土質シルト 径5cm未満の礫多量入る 炭化物・土器片少量入る ややしまり良い やや軟質(整地層)
- 13) 10YR4/6 褐色礫混じり粘土質シルト 径5cm未満の礫多量入る しまり良い(地山)

図5 調査区断面図(1:100)

計画し、東西方向の調査区を第1区、南北方向の調査区を第2区として設定した。

第1区の基本層序は、GL-0.5mまで盛土、-0.7mまで暗褐色礫混じり粘土質シルト（平安時代後期包含層）、-0.9mまで暗褐色細砂混じり粘土質シルト（整地層）であり、以下、褐色礫混じりシルトを主体とする地山を確認した。

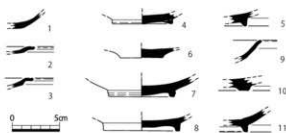


図6 出土遺物実測図（1：4）

遺構面は、平安時代後期包含層の上下面に存在し、いずれもピットを検出した。遺構面の形成時期は、下面が平安時代前期～中期、上面が平安時代後期以後である。

第2区では、GL-0.5mまで盛土、-0.7mまで灰黄褐色粗砂混じりシルト（近世包含層）、-1.0mまで黒褐色粗砂混じり粘土質シルト（平安時代後期包含層）、以下、地山を確認した。このうち平安時代包含層には、平安時代前期～中期の瓦、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器の細片が多量に含まれていた。層の上面が非常に固く締まることから、整地が為されたものと推測される。また、近世包含層上面ではピット1基を検出した。

遺物は第1・2区の平安時代後期包含層より、土師器、須恵器、陶磁器の破片が出土した（図6）。1は須恵器坏身（坏A）の底部である。内外面ともに轆轤ナデで仕上げられる。2・3は土師器皿の口縁部である。て字状口縁を有し、端部を玉縁状におさめる。4は土師器碗の底部である。摩滅が著しい。5～10は白色土器の底部である。6は円盤状高台の外面に糸切痕を残す。11は緑釉陶器の底部で内外面ともに施釉する。これらの出土遺物の所産時期は、9世紀後半～10世紀におさまる。

以上のことから、当該地点では地山直上面において平安時代前期～中期に遺構面が形成され、平安時代中期以後に一度整地が行われた後、再び土地利用がされたことが窺える。

### 3 まとめ

今回の調査では、太政官朝所に比定される区画において、平安時代前期～中期のピット群及び整地層を確認した。限られた範囲の調査であるが、当該地に平安時代後期以前の遺構面が良好に残存することが明らかとなった。『枕草子』には、一条天皇の皇后定子が父である藤原道隆への服喪の際に、内裏から退出した先が朝所であったと記されている。その建物は、背の低い瓦葺で格子が無く、簾がかかる構造であったと表現される。調査では、土器片とともに瓦片が一定量出土しており、その記述との関連が注視される。

なお、今回の調査地では計画建物の設計変更により、遺構面の保護が図られた。

（黒須亜希子）

#### 引用文献

- 『平安宮1』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995  
赤間恵都子『枕草子 日記的章段の研究』三省堂 2010

## Ⅲ-1 平安京左京四条一坊三町跡

No.42 (20H249)

### 1 はじめに

本件は錦坊城公園の再整備計画に伴う試掘調査である。調査地は中京区壬生御所ノ内町に所在し、平安京左京四条一坊三町跡に該当する。住居に関する史料は残されていないが、当該地南隣接地における試掘調査(図7)で、平安時代中期初頭(9世紀後半)の園池を確認していることから、平安時代中期には園池を伴う邸宅があったことが判明する<sup>1)</sup>。また、周辺では当該地北側の二町でも平安時代前期から後期にかけての断続的な土地利用の状況と、12世紀前半の所有者である藤原為隆によって作庭された池跡を確認<sup>2)</sup>している。このように調査地周辺は平安京の主要道路である朱雀大路に面する立地条件の良さに加え、園池を伴う庭園の作庭に適した湧水量の豊富な地域に位置していることが推測



図7 調査位置図(1:5,000)

できる。このような状況から、公園整備に向けて遺構を保存するためのデータが必要とされ、令和2年6月10日に文化財保護法94条に基づく通知がなされ、同年10月7日に試掘調査を実施した。

### 2 遺構(図8・9)

調査区は現在設置されている遊具などを避けて3箇所に設定した(第1～3調査区)。

**第1・2調査区** 第1・2調査区の基本層序はほぼ共通し、公園造成土及び旧耕作土直下のGL-0.58～0.80mで灰黄褐色砂礫または泥砂の平安時代中期の整地土、-0.9mで褐灰色砂礫または浅黄色微砂の地山となる。調査区全域で整地土を検出したが、遺構は未確認である。

**第3調査区** 第3調査区の基本層序は公園造成土以下、GL-0.58mで灰色泥砂(礫混)及び灰色泥砂の平安時代中期整地土、-0.92mで黄灰色泥砂の平安時代中期以前の整地土、-1.18mでぶい黄色微砂の地山となる。遺構は平安時代中期整地土直上で溝1、平安時代中期以前の整地土直上でビット2と溝3を検出した。なお、平安時代中期以前の整地土は地山が下がった第3調査区のみで

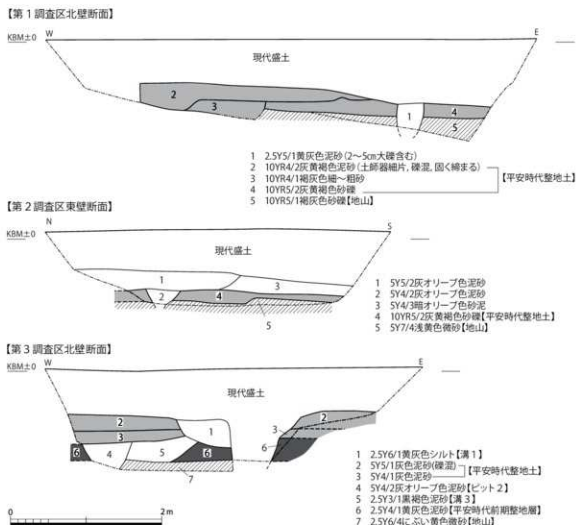


図8 調査区断面図(1:50)

確認した。また、主だった出土遺物の年代が平安時代前期に属することから、平安時代前期に遡る整地土の可能性が示唆されたが、遺物量が限られおり断定するには至らなかった。

**溝1** 調査区の中央で検出した南北溝である。東半分が削平されているが、検出面で幅0.7m、深さが0.34mとなる。埋土には土師器を中心とした遺物が含まれている。検出位置が推定坊城小路西築地芯の西側にあたることから、内溝と判断した。

**ビット2** 平安前期整地土及び溝3を掘り込む。検出面での幅は0.68m、深さは0.34m以上となる。

**溝3** 溝1に掘り込まれている南北溝で、検出面で幅0.88m、深さは0.36mである。検出位置が推定坊城小路西築地芯の西側にあたることから、内溝と判断した。

### 3 遺物(図10)

第1区では灰黄褐色泥砂からなる平安時代中期の整地土(図8第1区層2)から土師器、須恵器、緑釉陶器などが出土した。いずれも細片であったため土師器皿1と緑釉陶器2を図化した。1は皿



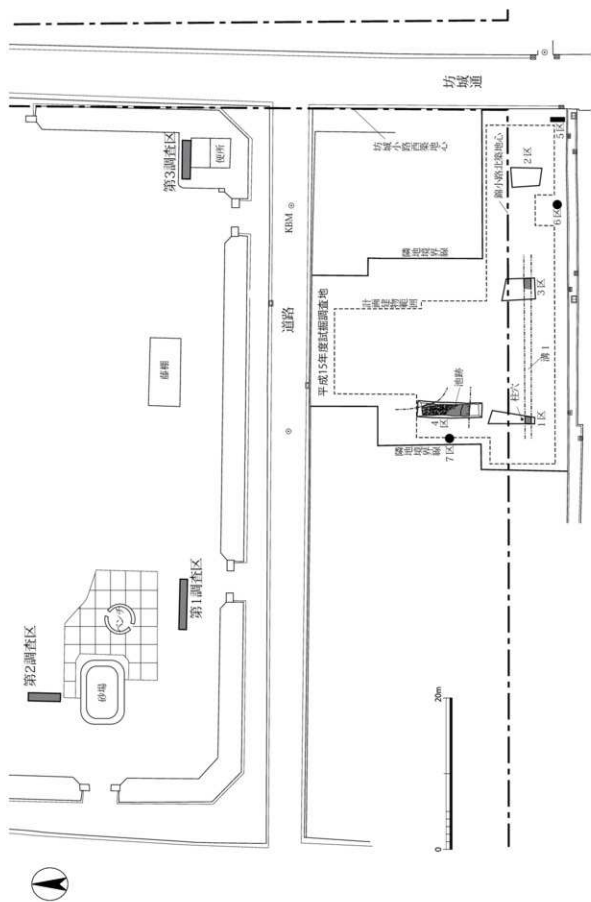


图9 調査区位置图 (1 : 500)

Aである。2は猿投窯産緑軸陶器で壺脚と推測される。非常に珍しい器形で管見の限り類例を見ない。透かしと線刻の花文を持つ。1は細片で詳細な時期は不明だが平安時代中期の特徴を持つ。

3は第3区の溝3から出土した土師器皿である。出土遺物が少なく1点のみのため遺構の時期は不明だが、平安時代前期の特徴を持つ。

4～9は第3区の機械掘削中に出土した遺物である。平安時代前～中期に属す。4は土師器杯Aで内面にミガキを施される。5も土師器皿Aである。6は黒色土器Aの杯である。7・8は緑軸陶器で7は山城産の皿で、8は猿投窯産の椀である。9は須恵器の小壺である。

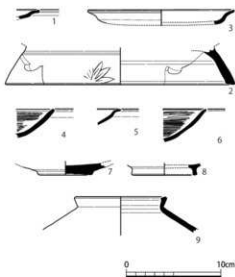


図10 出土遺物実測図(1:4)

## 4 まとめ

本調査の目的が遺構保存のためのデータを得ることにあり調査範囲が限定された。したがって、今後の調査の進展によっては再考を要するが、当該地まで南隣接地で確認している園池が展開しない可能性が高まった。邸宅内の利用方法については判然としないが、園池が町の南東よりに位置し中央に向かって広がっていること、園池の北側(当該地)が平安時代中期以前に整地されていることを勘案すれば、当該地は建物などが配される空間であった可能性がある。また、園池が廃棄された9世紀後半以降に広範囲にわたって整地がなされており、土地利用の変化に伴って土地改変が行われたと推測できる。

また、第3調査区で確認した内溝も2時期あり、前者は10世紀中頃以前、後者が10世紀中頃以降と考えられる。上記した当該地の土地利用の変化に伴って内溝も改修されたと推測できる。

以上の通り、限られた範囲での調査成果ではあるが、三町の様相と時期的変遷が明らかになった。今後は当該地周辺の小規模な開発行為に対しても留意していかなければならない。

(鈴木 久史・赤松 佳奈)

### 註

- 1) 馬瀬智光・堀大輔「Ⅲ-1 平安京左京四条一坊三町跡 No.24」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004
- 2) 南孝徳ほか「平安京左京四条一坊二町跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-10』(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015
- 3) 『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊(財)京都市埋蔵文化財研究所1990 図版九掲載の緑軸陶器椀(4-90)に特徴が類似する線刻の花文が施されていると平尾政卓氏にご教示いただいた。

## Ⅲ-2 平安京左京四条三坊十五町跡，烏丸御池遺跡

### No.43 (20H282)

#### 1 調査に至る経緯と経過

調査地は、烏丸通と六角通の交差点より東に位置する。平安京の復元では左京四条三坊十五町の北辺にあたり、六角通を隔てた北には紫雲山頂法寺（六角堂）が所在する。この町域には平安時代後期に白河上皇の院の別当を務めた藤原国明（後に源国明）の邸宅があり、後に院の御所「六角東洞院第」が置かれたとする地歴が残る。また、六角堂は平安時代中期の建立と推定されており、当町域はその門前町として栄えたことが窺える。

現代においても周辺は商店やオフィスビルが建ち並ぶ商業区域であり、度重なる開発行為とこれに伴う発掘調査が多発する地域である。一方、近世以後の盛土が厚く堆積するため、これに守られるかたちでそれ以前の遺構面が良好に残存することも知られている。調査地周辺では、発掘調査が多く実施されており、東隣接地（図11①）では、GL-2.7mの深度において鎌倉時代～江戸時代の遺構が確認されている。また、西隣接地（同②）では、GL-2.6mの深度において井戸を伴う平安時代の遺構面が確認されている。さらに、南東の区画（同③）では平成26年度に調査された結果、GL-1.5～-2.0mの層間に平安時代後期、鎌倉時代、室町時代、桃山期、江戸時代の各面が検出されている。このため当該地でも同様の深度において、遺構面が重層的に存在することが予測された。

令和2年7月、この区画に店舗（商業ビル）の建設が計画され、文化財保護法第93条第1項に係る届出が提出された。これを受けて当課は、既



図11 調査位置図(1:2500)



図12 調査区設定図(1:400)

往の調査成果より発掘調査が必要であると判断したが、想定される遺構深度に対して開発面積が小さいこと、また土壌の締まりが悪く、長期間にわたる調査区の開口は土壁崩落の危険性が高いことから、通常の発掘調査は難しいと考えた。このため、まず試掘調査により遺構面の残存範囲を確認した後、短期間の内に連続して延長調査を行うことを提案した。以後、申請者と協議を重ね、協力を得て調査に着手した。試掘調査は令和2年8月24日に実施し、その後、8月28日まで調査を継続した。

調査区は、建物計画範囲の南半部に設定した。これは既往の調査成果より、南半部に図1調査①より連続する遺構群が展開する可能性が高いこと、また北半部には近世以後の大規模な廃棄処理土坑があり、それ以前の遺構が破壊されているとの推論に基づく。調査区の規模は、南北長7.5m×東西幅4.0mを設定して掘削を開始したが、安全勾配を設けた結果、最終遺構面の検出面積は21.0㎡となった。

以上の経緯を経て調査を行った結果、室町時代と江戸時代の遺構面を検出した。

## 2 調査成果

### (1) 基本層序 (図13)

GL-0.6～-1.1mまで盛土、-1.2mまで褐色粗砂～礫混じりシルトを主体とする近世末～近代堆積層、-1.5mまで暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトを主体とする近世包含層、-2.0mまで黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする中世後期～近世初頭包含層、-2.2mまでオリーブ褐色礫混じりシルトを主体とする中世以前相当層、以下、黄褐色微砂混じりシルトを主体とする地山となる。検出遺構面は、GL-1.5mで近世遺構面(第1面)、-2.0mで室町時代後期～桃山期遺構面(第2面)の計2面であるが、断面観察では、第1面と第2面の間に1面(桃山期遺構面)が介在するほか、地山上面が平安時代遺構面に相当すると解される。

### (2) 遺構と遺物 (図14～16)

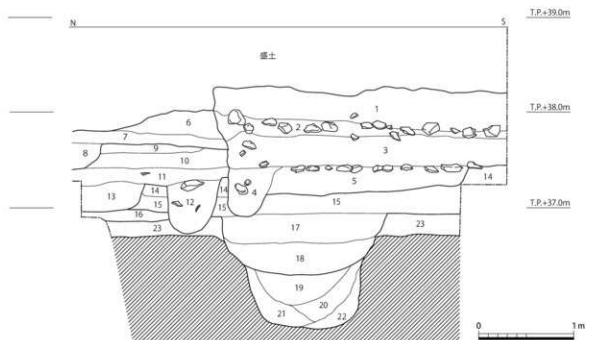
#### 第1面(近世)(図14)

盛土及び、近世末～近代堆積層を除去して検出した遺構面である。調査区の南西には近現代の地下室が、南東には蔵の基礎とその掘り方が存在するため遺構面は大きく損なわれている。また、北半部には近世末期の陶磁器や焼瓦片を多量に含む廃棄処理土坑(土坑1)があることから、遺構はごく限られた範囲にのみ残存する。基盤層は灰オリーブ色粗砂混じりシルトを主体とする固く締まった整地層で、南の方が僅かに高い。第1面では土坑、ピット、井戸を検出した。

**土坑2** 調査区中央東辺に存在する平面方形を呈する土坑である。南北長1.3m以上、東西幅2.0m以上を測る。最大深度は0.2m、底面には凹凸が認められる。埋土は褐色粗砂混じりシルトを主体とする。遺構内からは、土師器皿(図16-10)、銅(13)、灯明皿、瓦質土器鉢、風炉、唐津焼皿(11)、瀬戸美濃焼片口鉢、信楽焼搦鉢、天目茶碗(12)、染付碗(14)等が出土した。

**井戸3** 廃棄処理土坑の上面において成立する遺構である。径1.8mの円形を呈する。個別の掘削は行っていないが、表層に井戸枠と見られる石列が認められる。陶磁器類及び染付碗が出土した。近代まで使用された施設と推測される。

**ピット4** 調査区中央西半部において検出したピット群のひとつである。平面形状は長径0.45m、短径0.4mを呈する楕円形で、断面形状は隅丸方形に近い。最大深度は0.3mを測る。埋土は暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトを主体とする。ピット8とは切り合い関係にあり、ピット4の方が新しい。埋土から白磁碗、須恵器甕の細片、土師器皿（近世）等が出土した。



- |   |  |
|---|--|
| <p>1) 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂～礫混じり細砂に<br/>10YR4/1 褐灰色シルト層隙状に入る 礫大の礫少量入る (蔵基礎)</p> <p>2) 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂～細砂 礫大の礫少量入る (蔵基礎)</p> <p>3) 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂混じりシルト 径3cm未満の礫少量入る 下に礫に礫の中に入れて入る (蔵基礎)</p> <p>4) 25Y4/2 暗灰黄色粗砂混じりシルトブロックと 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂混じりシルトブロックの混合層 径5cm未満の礫少量入る 炭化物、土師片少量入る しまり悪い 軟質 (蔵基礎・ピット16)</p> <p>5) 25Y4/2 暗灰黄色粗砂混じりシルトブロックと<br/>25Y4/4 オリーブ褐色粗砂混じりシルトブロックの混合層 炭化物、土師片少量入る しまり悪い やや軟質 (蔵基礎)</p> <p>6) 10YR4/4 褐色粗砂～礫混じり細砂 径3cm未満の礫少量入る 2.5Y3/2 黒褐色粗砂混じりシルト10%程度入る (近世末～近代埋積層)</p> <p>7) 2.5Y3/2 黒褐色粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る 焼土塊、炭化物、土師片少量入る しまり悪い やや軟質 (近世末～近代埋積層)</p> <p>8) 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトに 10YR4/4 褐色粗砂混じりシルトブロック5%程度入る 径2cm未満の礫少量入る 炭化物、土師片入る しまり悪い (土坑1)</p> <p>9) 10YR4/4 褐色粗砂混じり粘土質シルトに 10YR4/6 褐色シルトブロック20%程度入る 径1cm未満の礫少量入る ややしまり悪い やや軟質 (近世埋積層)</p> <p>10) 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトに 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルトブロック5%程度入る 径1cm未満の礫少量入る 炭化物、土師片、陶磁器片入る しまり悪い (近世埋積層)</p> <p>11) 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混じりシルトに 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混じりシルトブロック20%程度入る 径2cm未満の礫少量入る 炭化物、土師片、陶磁器片少量入る しまり悪い やや軟質 (土坑2)</p> | <p>12) 2.5Y3/2 黒褐色粗砂混じりシルト 径3cm未満の礫少量入る 炭化物、土師片少量入る しまりやや悪い やや軟質 (ピット14)</p> <p>13) 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混じりシルトに 5Y4/2 灰オリーブ褐色シルトブロック10%程度入る しまり悪い やや軟質 (土坑15)</p> <p>14) 2.5Y3/2 黒褐色粗砂混じりシルトに 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い (松山褐色含層)</p> <p>15) 2.5Y3/2 黒褐色粗砂混じり粘土質シルト 径2cm未満の礫少量入る しまりやや悪い 鉄分沈着 (松山褐色含層)</p> <p>16) 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混じりシルトに 4.5Y5/6 黄褐色粗砂ブロック10%程度入る 径2cm未満の礫少量入る 炭化物、土師片少量入る しまり良い (空明時代後期遺構面基盤層)</p> <p>17) 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトに 4.5Y5/6 黄褐色粗砂ブロック10%程度入る 径4cm未満の礫少量入る しまり悪い (溝20上層)</p> <p>18) 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト 径5cm未満の礫少量入る ややしまり悪い 軟質 鉄分沈着 (溝20上層)</p> <p>19) 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混じりシルト 径2cm未満の礫少量入る ややしまり悪い やや軟質 (溝20下層)</p> <p>20) 2.5Y2/1 黒褐色粗砂混じり粘土質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る 下に粗砂の流入あり 植物体残存 軟質 (溝20下層)</p> <p>21) 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混じり砂質シルト 径2cm未満の礫少量入る 軟質 (溝20下層)</p> <p>22) 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混じり砂質シルトに 2.5Y4/4 黄褐色粗砂混じりシルトブロック20%程度入る 径2cm未満の礫少量入る 軟質 (溝20下層)</p> <p>23) 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂混じりシルト 鉄分沈着 (中世以前相出層?)<br/>地山) 2.5Y4/4 黄褐色粗砂混じりシルト 固くしまる 鉄分沈着 (地山)</p> |
|---|--|

図13 調査区東壁断面図 (1:40)

**ビット5** 平面形状は径0.3mの円形、断面形状は椀形、最大深度は0.22mを測る。埋土は黄灰黄色粗砂混じりシルトを主体とする。埋土から常滑焼甕の細片、土師器皿の破片が出土した。

**ビット6** 平面形状は0.35mの円形、断面形状は椀形、最大深度は0.29mを測る。埋土はオリブ褐色粗砂混じりシルトを主体とし、土師器の細片をわずかに含む。

**ビット7** 平面形状は径0.5mを測る円形、断面形状は浅い椀形、最大深度は0.26mを測る。埋土は暗灰黄色粗砂混じりシルトを主体とする。土坑11を切って成立している。

**ビット8** 平面形状は径0.3mを測る円形、断面形状は浅い椀形で、最大深度は0.18mを測る。埋土は暗灰黄色粗砂混じりシルトを主体とする。遺物の出土は確認できなかった。

**土坑9** 調査区南端で検出した遺構である。地下室構造物（漆喰塗り）に西端が切られる。平面形状は不定形で、南北長0.8m、東西幅1.0m以上を測る。断面形状は皿形で、底面には凹凸がある。最大深度は0.26mを測る。埋土は暗灰黄色粗砂混じりシルトを主体とし、炭化物及び土器片を多量に含む。埋土から土師器小型壺（図16-15）、土師器皿（16～26）、土師器灯明皿、瓦質土器風炉（27）、天目茶碗、染付湯呑、施釉陶器碗、銅製煙管の吸口等が出土した。

**土坑10** 調査区中央西端で検出した土坑群のひとつである。検出時には不定形な平面形状であったが、底面付近では径1.2m程度の円形となった。断面形状は浅い皿形で、最大深度は0.23mを測る。埋土は暗灰黄色粗砂混じりシルトを主体とし、小礫を多く含む。土坑12とは切り合い関係にある。埋土から瓦質土器鉢、瀬戸美濃焼碗、平瓦の破片が出土した。

**土坑11** 南北長1.0m以上、東西幅0.9m以上に復元できる不定形土坑で、最大深度は0.23mを測る。ビット7、土坑12とは切り合い関係にある。埋土はオリブ褐色粗砂混じりシルトを主体とし、小礫を多量に含む。埋土からは遺物が多く出土したが、いずれも細片で図化に至ったのは僅かである。土師器皿（図16-28）、灯明皿、唐津焼碗、瓦質土器風炉、備前焼壺、信楽焼鉢、染付湯呑等が出土した。

**土坑12** 土坑群のうち、もっとも下層に位置する遺構である。径0.8m程度の円形に復元できる。最大深度は0.2m、埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする。遺物の出土はなかった。

**ビット13** 土坑1の上面で成立する遺構である。平面形状は径0.4mを測る円形、最大深度は0.24mを測る。埋土は暗灰黄色礫混じりシルトを主体とする。施釉陶器皿（図16-29）が出土した。

**ビット16** 東壁断面で検出した遺構である（図13-4）。蔵基礎構築時に設けられた掘り込みの一部であると解される。最大深度は0.5mを測る。土師器灯明皿（図16-31）が出土した。

**土坑17** 調査区南西部において検出した大型遺構である。当初は地下室の掘り方に相当すると推定したが、他遺構との切り合い関係および出土遺物の年代から、別遺構と判断した。埋土は暗灰黄色礫混じりシルトを主体とする。土師器甕（図16-36）、皿、白磁碗、青磁碗、鉄軸掛け天目茶碗、備前焼碗、鉢、信楽焼播鉢等が出土した。

## 第2面（図15）

第2面は、室町時代後期～桃山期包含層を除去した段階で検出した遺構面である。基盤層は、暗灰黄色粗砂混じりシルトに黄褐色細砂ブロックを含み、固く締まる。土坑、ビット、溝を検出した。

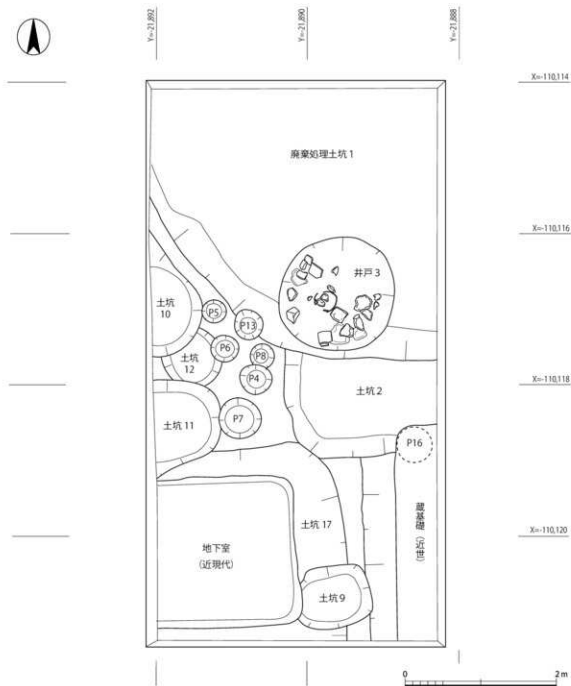


図14 第1面平面図 (1:50)

**ビット14** 調査区東壁で検出した遺構である。平面形状は径0.5mの円形に復原できる。第2層中において成立する遺構で、最大深度は0.5mを測る。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする。土師器皿、白磁碗ほか、焼土塊（鋳型か？）の細片が出土した。

**土坑15** 同じく調査区西壁において検出した遺構である。平面形状は0.45m程度の隅丸方形を呈すると推測される。最大深度は0.28mを測る。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする。土師器皿（図16-30）、焼締陶器瓶のほか、刀子とみられる木質が付着した鉄片が出土した。

**溝20** 調査区南半部を東西に通る溝である。検出長は0.8mに満たないが、最大幅1.5m、最大

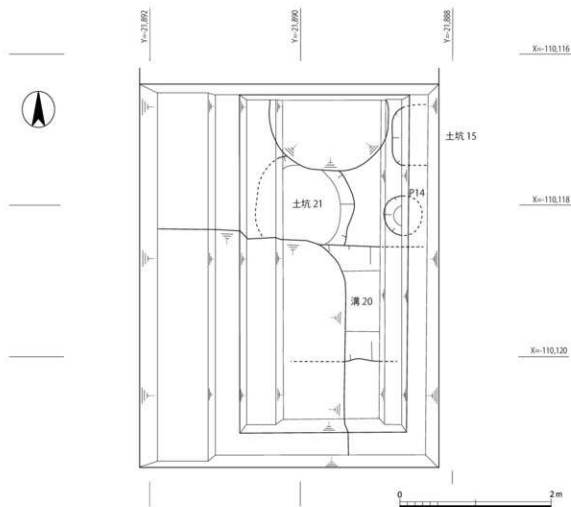


図15 第2面平面図 (1:50)

深度1.2mを測る大型遺構である。断面形状はU字形を呈する。埋土は上下2層に大別でき、上層は暗オリーブ色粗砂混じりシルト、下層は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする。上層は総じて締まりが悪くブロック土を含み、下層は軟質で粗砂の流入が僅かに認められる。このため、下層は弱い流水堆積であり、上層は人為的に埋め戻された土と推定される。上層からは土師器皿(図16-9)が、下層からは土師器皿(1~8)がまとまって出土した。

**土坑21** 溝20の北側で検出した遺構である。平面形状は不定形、南北長は1.1m以上、東西幅は0.9m以上を測る。断面形状は皿形で、最大深度は0.18mを測る。埋土は暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトを主体とし、底面付近に小礫を多く含む。遺物は確認できていないが、他と異なる埋土をもつことから、中世以前に遡る可能性がある。

### 3 まとめ(図17)

以上、調査成果を報告した。限られた範囲及び期間での調査であったが、室町時代と江戸時代の遺構面を検出し、これに伴う遺構群を確認することができた。このうち注目される室町時代の溝20について以下に考察を加え、本文のまとめとしたい。



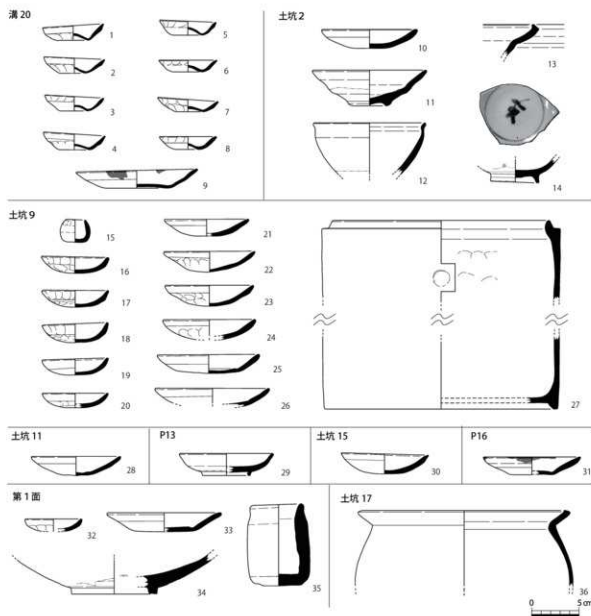


図16 遺物実測図(1:4)

溝20は東西方向へ直線状に伸び、調査区外へと続くが、その方向性と遺構の規模から、東隣接地で確認された溝(SD3)に連続すると思われる(図17)。六角小路南築地心からは15.5mを測る距離にあり、四行八門制の北一門と二門を区画する溝としては適当な位置にあるといえよう。ただし、幅1.5mを測る規模は小路側溝に相当する大きさである。近隣での事例をみると、六角堂境内(図11⑤)で北五門と北六門の区画溝として最大幅1.2mの東西溝が検出されており、報告文ではこの溝を境に遺構密度が異なることを指摘している。このため、土地利用の在り方が明確に異なる場合には大型の区画溝を設けた可能性が考えられる。

今回の調査では、この溝20の埋没年代が15世紀後半頃であることが確定した。当該時期、周囲は戦況下であり、応仁元年(1467)の下京焼亡では、六角堂も焼失したと推測されている。その後復興が進められ、文明4年(1472)には六角堂の本尊を遷座、永正6年(1509)には鐘が鑄造された。現在、六角堂の鐘楼は本尊とは六角通を隔てた十五町北一門にある(図11参照)。溝20

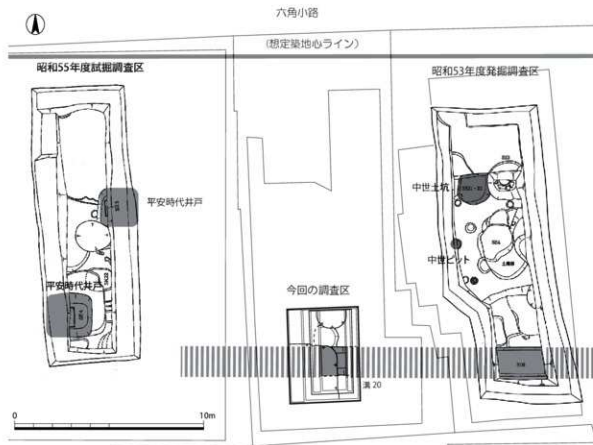


図17 調査成果接合図(1:200)

が西へ連続した場合、鐘樓の南を区切る位置にあたり、寺域を区切る溝として機能した可能性がある。

安永9年(1780)に刊行された『都名所図会』には六角堂も描かれているが、その門前には民家が立ち並び、六角通より南に大溝が通る様子はない。今回の調査においても江戸時代の遺構面ではピットや土坑が密集していた。溝20はすでに埋め立てられており、その痕跡はまったく認められなかった。溝20は、桃山期に埋め立てられたと推測される。六角堂の寺域の変遷にはより詳細な検証が必要であるが、今回の調査成果をその一資料として提示しておきたい。

(黒須亜希子)

#### 引用・参考文献

- 調査①：「16 平安京左京四条三坊十五町跡1」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011
- 調査②：「17 平安京左京四条三坊十五町跡2」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011
- 調査③：『平安京左京四条三坊十五町・烏丸御池遺跡―御射山町の調査―』古代文化調査会 2015
- 調査④：『平安京六角堂の発掘調査』平安京跡調査報告第2輯 (財)古代学協会 1977
- 調査⑤：『六角堂第3次・第4次調査』平安京跡研究調査報告第21輯 (財)古代学協会 2006
- 竹村俊則 校注『都名所図会』角川書店 1976

### Ⅲ-3 平安京左京九条三坊八町跡，烏丸町遺跡

No.10 (19H589)

#### 1 調査の経緯

本件は店舗新築にともなう試掘調査である。京都駅の南側，南区東九条室町48に位置し，平安京左京九条三坊八町跡および烏丸町遺跡に該当する。隣接する九町は八条院領であることが文献史料に残るが，八町についての記録はなく詳細は不明である。

対象地周辺においては発掘調査が多数実施されている(図18)。調査①は平安時代～鎌倉時代にかけての流路，鎌倉時代の池や土坑・建物などの遺構を確認しており<sup>1)</sup>，調査②では鎌倉時代の針小路の構築土や側溝・建物などの遺構を確認している<sup>2)</sup>。調査③は主に鎌倉時代の遺構が多く確認されており，四行八門の区画溝や堀などが確認されている<sup>3)</sup>。調査④は広範囲の調査により古墳時代から中世の遺構が多数確認され，土地利用の変遷が明らかとなっている。遺物では青白磁やガラス製の水滴などが出土しており，八条院は当時政権の中枢にいた平清盛の弟である頼盛との関係が指摘されている<sup>4)</sup>。調査⑤では，平安時代前期の池や，平安時代末から鎌倉時代の建物群を確認し，施薬院に関わる木簡などが出土している<sup>5)</sup>。

以上のように，周辺では平安時代から鎌倉時代にかけての遺構が多く確認されている。

調査は令和2年3月31日に行い，調査面積は18㎡である。今回は平安時代末から鎌倉時代の遺物が出土した1区を中心に報告する。

#### 2 層序と遺構(図20)

調査は既存建物を外した北側を中心に行った。土置場の確保のため調査区は3箇所に分けて実

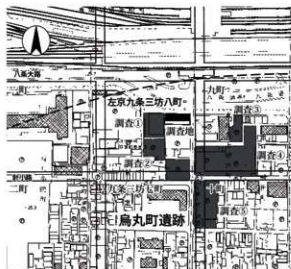


図18 調査位置図(1:5,000)

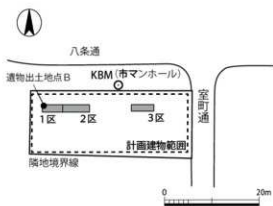


図19 調査区配置図(1:800)



図20 1・2区南壁断面図(1:80)

施した(図19)。

1区はGL-0.6mで灰色泥土の近世遺物包含層(1層)、-0.7mで黒褐色泥砂の中世の整地層(3層)、-0.9mで黄灰色砂泥の平安時代末～鎌倉時代の遺物包含層(4層)(遺物包含層A)、-1.0mで暗灰黄色泥砂～細砂の平安時代の整地層(5層)、-1.2mでオリーブ色砂礫の地山(6層)である。3層の黒褐色泥砂層を切込み、土坑状の落込み(2層)を確認した。また、調査区北西隅(図19-遺物出土地点B)で4層の遺物包含層Aに対応する層から平安時代末から鎌倉時代にかけての土師器皿が多量に出土した。

2区はGL-1.0mまで現代攪乱が及んでいるものの、わずかながら土層を確認した。GL-1.0mでオリーブ褐色泥砂の近世遺物包含層、-1.2mでオリーブ色砂～砂礫の地山を確認した。

3区は2区と同様で現代盛土の下、近世遺物包含層をはさみ、GL-1.2mでオリーブ色砂礫の地山を確認した。

### 3 遺物(図21)

1区の4層に対応する層(遺物出土地点B)から遺物がまとめて出土した。出土した遺物は細片のものを含み総数213点となる。遺物の内訳は土師器、須恵器、輸入陶磁器などである。1は白磁皿である。2～34は土師器皿である。2・3は土師器皿Ac, 4～33は皿Nで、34は皿Sである。皿Nの口径は7.8～12.0cm, 高さ1.2～2.1cmである。35・36は東播系須恵器鉢である。35は口縁端部が立ち上がり、外面に煤が付着する。遺物の時期は6A～6Bに属しており、平安時代末から鎌倉時代にかけての遺物と考えられる。

### 4 まとめ

今回の調査では、平安時代末から鎌倉時代の遺物包含層Aや整地層、土坑などを確認した。この結果を基に記録保存のための発掘調査を指導し実施した<sup>6)</sup>。発掘調査では平安時代前期の流路や、平安時代末から鎌倉時代の柵や溝などが確認され、平安京左京九条三坊一町の一端が明らかとなった。

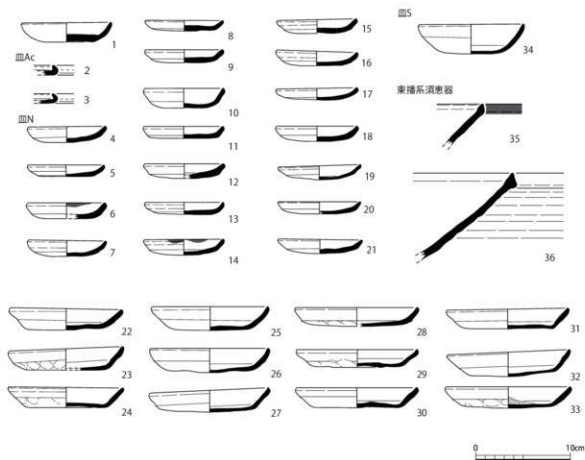


図21 出土遺物実測図（1：4）

遺物出土地点Bから出土した土器群は多数の土師器を伴う一括資料であったため、遺跡の理解の一助とすべく今回報告した。発掘調査によって鎌倉時代の土坑（SK138）であったことがわかった。今後も対象地の周辺で開発工事が増加する可能性が高く、八条口周辺の動向には注視する必要がある。

（清水 早織）

註

- 1) 未報告（平成30年度終了報告を参照）
- 2) 鈴木康高他『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-8（公財）京都市埋蔵文化財研究所 2017
- 3) 小松武彦『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡』古代文化調査会 2018
- 4) 佐藤重聖他『平安京左京九条三坊九町跡・烏丸町遺跡』（公財）元興寺文化財研究所 2019
- 5) 小橋山一良他『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-15（財）京都市埋蔵文化財研究所 2012
- 6) 『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡発掘調査報告書』（株）文化財サービス 2020

## IV-1 平安京右京一条三坊十四町跡

No.52 (20H256)

### 1 調査の経緯

調査地は右京区花園異南町に位置する。平安京右京一条三坊十四町に該当する。同町は邸宅などの詳細な記載はなく、不明な点が多い。

当該地において、共同住宅新築工事が計画され、令和2年7月17日付けで文化財保護法第93条第1項に基づく埋藏文化財発掘の届出がなされた。これを受け、当課は令和2年7月30日に試掘調査を実施した。その結果、建物計画範囲の南側で遺構を確認した。調査面積は計64㎡である。

対象地周辺では調査①で古墳時代から平安時代の遺物を含む河川堆積を確認したものの、建物等の遺構の確認には至っていない<sup>1)</sup>。調査②の試掘調査は敷地の北側でGL-0.6mで明黄褐色砂泥の地山を確認し、北から南へ向かって地山が砂泥から砂礫へ変わることを確認している。また、南側へ向かって落ちる傾斜を確認するものの顕著な遺構・遺物は確認していない<sup>2)</sup>。調査③は西小路拡幅工事に伴い発掘調査が行われ、恵止利小路の西側溝や中御門大路の南側溝が確認されている<sup>3)</sup>が、対象地周辺は発掘調査事例が少なく、不明な点が多い(図22)。

調査区は東西方向に1区と3区、南北方向に2区を設定した(図23)。今回の調査で1区は顕著な遺構は確認できず、2区も全体的には顕著な遺構は確認できなかったものの、2区の南端で一部ピットが確認されたため、3区の調査を行った。本文では、平安時代の遺構を確認した3

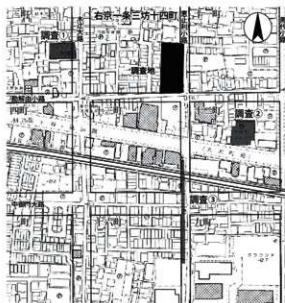


図22 調査位置図 (1 : 5,000)

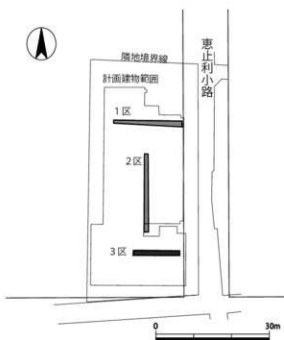


図23 調査区配置図 (1 : 1,000)

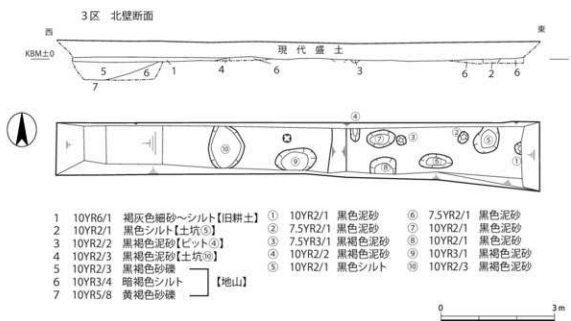


図24 3区平・断面図（1：100）

区を中心として報告する。

## 2 層序と遺構（図24）

層序は、現代盛土以下、GL-0.5mで褐色シルトの地山を確認した。シルトの地山上面で遺構検出を行ったところ、平安時代の須恵器や土師器甕を含む遺構群を確認した。

確認した遺構はビットが4基（ビット①～④）、土坑が6基（土坑⑤～⑩）である。

ビット①～④は、直径0.2～0.3m、深さ0.15～0.2mほどである。埋土は黒色泥砂～黒褐色泥砂である。

土坑⑤～⑩は直径0.5～0.8mの土坑群である。深さは0.15～0.2mである。埋土は黒色シルト～黒褐色泥砂である。土坑⑩の埋土から土師器片などが出土した。

## 3 遺物（図25）

3区の土坑⑩から土師器（1・3）・須恵器（2）の遺物が出土した。

1は土師器の皿Aである。2は須恵器の杯蓋である。3は土師器甕の口縁部である。外面にハケメが施される。いずれ

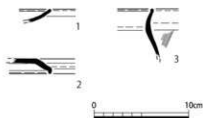


図25 出土遺物実測図（1：4）



図26 3区遺構検出状況写真（東から）

も小片ではあるものの、時期は平安時代前期と考えられる。

#### 4 まとめ

今回の調査で対象地の南側を中心として平安時代前期のピットや土坑群を確認した。対象地の周辺では調査③で恵止利小路の西側溝や大御門大路の南側溝を確認しているが、そのほかは、河川堆積などの確認にとどまり、顕著な遺構が確認されている調査は少ない。十四町内で平安時代の遺構が確認されたのは初めてであり、今回の調査により遺構が確認されたことは平安時代の様相を示す資料を得ることができた。今後、周辺で平安時代の遺構が確認される調査事例の増加を期待したい。

(清水 早織)

註

- 1) 未報告（平成4年発掘調査終了報告を参照）
- 2) 『京都市内試掘調査報告 平成10年度』試掘調査一覧表33 京都市文化市民局 1998
- 3) 東洋一『平安京右京一条三坊十三町・二条三坊十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-4（財）京都市埋蔵文化財研究所 2012



## IV-2 平安京右京三条二坊五・十二町跡， 御土居跡，西ノ京遺跡 No.55 (20H027)

### 1 はじめに

本件は市営住宅建替のための事前調査である。調査地は壬生・壬生東市営住宅内に位置し平安京右京三条二坊五・十二町跡，御土居跡，弥生～古墳時代の散布地である西ノ京遺跡に該当する(図27)。右京三条二坊五町跡では宅地利用に関する史料は残されていないが，これまでの調査で平安時代前・中期の掘立柱建物などが確認されている。周辺では西大路通三条に面した市営住宅7棟(調査①右京三条二坊十二町跡)では昭和53年に発掘調査が行われており，平安時代前・中期の建物，井戸，溝などの遺構が確認されている。また，三条通を挟んで南側に位置する両洋高校敷地(調査②右京四条二坊八町跡)でも発掘調査が行われており三条大路南側溝，築地，内溝や平安時代前・中期の掘立柱建物や井戸を検出した。市営住宅の建て替え計画に伴い令和2年4月10日付け文化財保護法第94条第1項に基づく通知がなされ，令和2年8月24～26日および12月17日に試掘調査を実施した。

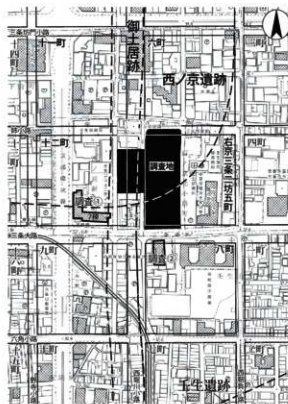


図27 調査位置図(1:5,000)

### 2 遺構(図30～33)

調査は市営住宅の建替予定地に12か所の調査区を設けて行った(図28・29)。調査は2度に行き令和2年8月に1～10区を，同年12月に12・13区を調査した。この結果，3区では平安時代の遺構を確認し，11・12区では御土居に伴う濠跡を検出した。11・12区については現在協議中のため今年度は1～10区について報告する。

1～10区内，遺構・遺物を確認したのは3区のみであった。他の調査区ではGL-1.0m以上まで近・現代盛土で，その下位に水成由来のシルト(湿地状堆積)もしくは砂礫(氾濫堆積)を確認したのみである(図30)。なお，7区は表土掘削中に既存の埋設管が見つかったため掘削を取り止

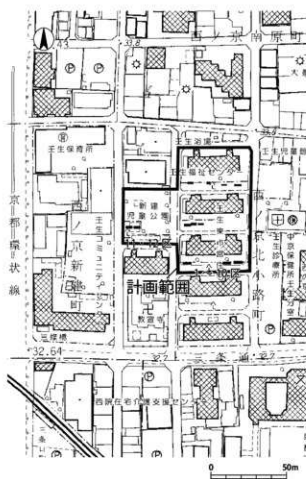


図28 計画範囲図 (1:2,500)

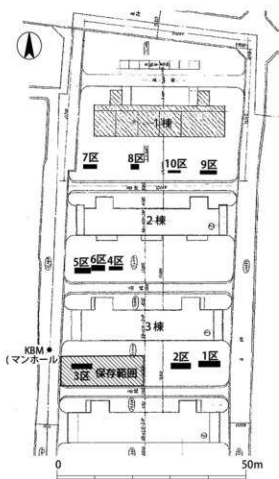


図29 1～10区 調査区配置図 (1:1,000)

めた。

3区は計画範囲の南側(3号棟前面)に設けた調査区で、GL-0.8mで近世包含層を検出した。近世以下の地層が良好に残っており、GL-1.1mで黄褐色砂泥、-1.3mで褐色灰色砂泥、-1.5mで黒褐色シルト、-1.7mで褐色極細砂～シルトの地山を確認した。平安時代の遺構はGL-1.3mから掘り込まれており、柱穴1と土坑2を検出した。

**柱穴1** トレンチ北壁の西側で確認した柱穴で径1.2mの円形を呈す。深さは0.7mで埋土は黒褐色砂泥であった。下部には須恵器壺底部と15cm大の石が置かれていた。柱の根石として使用されたと考えられる。詳細な時期は不明だが平安時代の遺構と考えられる。

**土坑2** 柱穴1の東肩を切る土坑もしくは溝である。ここでは部分的に確認したのみのため土坑として報告する。深さは0.6mで褐色灰色シルトであった。

調査区が狭小なため検出した遺構数は少ないが地層が良好に残っていることから、周辺の調査事例と同様に平安時代前・中期の遺構面が遺存していると推測される。このため指示範囲内で土木工事を行う場合は発掘調査が必要となる。ただし、現計画では今回の報告範囲には建物が建たず遺構面は保存される予定である。

(赤松 佳奈)

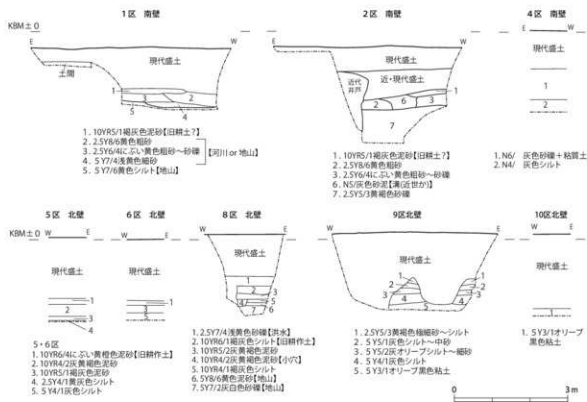


図30 1・2・4～8・9・10区 土層断面図(1:100)

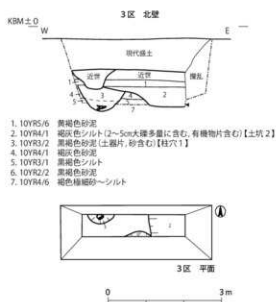


図31 3区 平・断面図(1:100)



図32 柱穴1 検出状況(南から)



図33 柱穴1 須臾器出土状況(南東から)

註

調査①:「31 平安京右京三条二坊十二町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011

調査②:江谷 寛『平安京右京四条二坊八町跡 両洋学園内新築工事に伴う発掘調査』『平安京右京内5遺跡』平安京跡研究調査報告第23集 (財)古代学協会 2009

## IV-3 平安京右京七条二坊七町跡，西市跡， 衣田町遺跡 No.13 (19H531)

### 1 調査に至る経緯と経過

調査地は、西大路通と花屋町通の交差点より南東に位置する(図34)。平安京の復元では、右京七条二条七町の南西隅に相当し、敷地の南辺が七条坊門小路の路面にかかる。当該町域は西市の北側外町として機能した可能性があるが、伝領等に関する史料記載は確認されていない。ただし、調査地より北の区画で平成30年に行われた試掘調査では、GL-1.0mの深度において流路の一部が確認されており、平安時代中期の土師器皿、黒色土器、緑釉陶器、瓦等が採取されている(図34①)。

また、調査地は弥生時代～古墳時代前期の遺物散布地である衣田町遺跡にも重複している。遺跡内では、これまでに方形周溝墓2基の発見が報告されているが、集落の中心ははまだ確認されていない。ただし、遺物の採取例は多いため、一定以上の規模をもつ集落であったと予測されている。

今回、この地点に共同住宅の建設が計画されたため、令和2年1月27日に試掘調査を実施した。その結果、遺構の検出が限定的であったことから、発掘調査は不要と判断された。ただし、一部で弥生時代に遡る可能性がある遺物包含層を確認したため、8月24日～27日に工事施工時の詳細分布調査を行った。その結果、ピット、土坑等を伴う弥生時代後期前半の遺構面を検出した。また、七条坊門小路の北側溝と、宅地内の内溝と推定される溝状遺構を確認した。本文は、これら一連の調査に関する報告である。

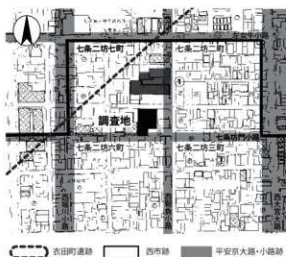


図34 調査位置図(1:5,000)

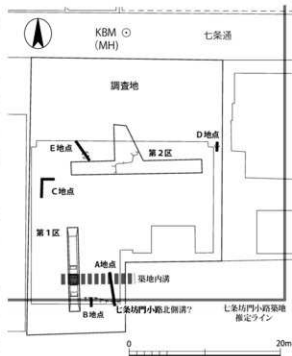


図35 調査地点位置図(1:500)

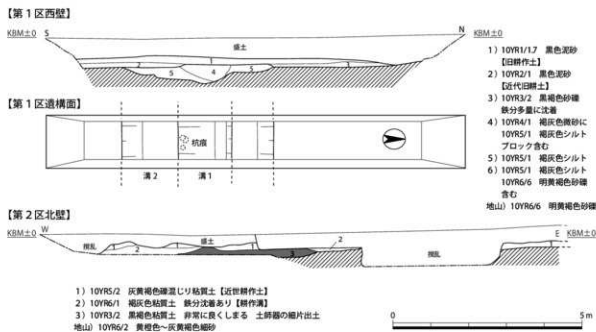


図36 試掘調査区平・断面図(1:100)

## 2 調査成果(図36～39)

**試掘調査** 七条坊門小路の北側溝を確認するため、調査地の南半部に南北方向の調査区(第1区)を設定した。また宅地内の様相を確認するため北半部に第2区を設定した(図35)。

第1区では、GL-0.6mまで現代盛土、-0.7mまで旧耕土、以下、明黄褐色砂礫を主体とする地山に至る。地山上面で遺構検出をおこなった結果、幅4.0m、深さ0.5mの規模をもつ東西溝を検出した。この溝は断面観察より新旧2時期の溝が重複したものと理解される。新しい溝1の最大幅は1.4mで、最大深度は0.4mを測る。古い溝2の底面では、径0.1～0.15mの杭痕を検出した。埋土からは須恵器片と瓦片が出土したが、磨滅しており、時期は不明である。

第2区では、現代盛土、近世耕作土以下、GL-0.5～0.7mで明黄褐色シルト～砂礫を主体とする地山に至る。ここでは、西側へ下がる落込みを確認した。この落込み埋土は非常に固く締まった黒褐色粘質土で、弥生土器と考えられる細片を多数含んでいた。

**施工時の詳細分布調査** 調査区南辺のA地点では、試掘第1区の東側で溝状遺構を検出し、溝1の延長部であると考えられた。これにより、溝1が町域の内溝である蓋然性が高まった。また、A地点の南端とB地点では七条坊門小路北築地心より南側で溝の北肩を確認し、七条坊門小路の北側溝である可能性が示された。C地点～E地点では、弥生時代後期の包含層と複数の遺構面を確認した。C地点では、GL-0.8mまで現代盛土と旧耕作土、-1.1mまで黒色粘土質シルト(弥生時代後期包含層)、-1.4mまでにぶい黄褐色粗砂混じりシルト(弥生時代遺構面基盤層)、以下、黒褐色微砂混じりシルトと暗灰黄色砂礫を主体とする地山に至る。遺構面は2面あり、それぞれピットや土坑を有する。遺構規模からは、建て替えを伴う竪穴建物の可能性も考えられる。包含層内から、弥生時代後期前半の壺、甕、高杯の破片が出土した。

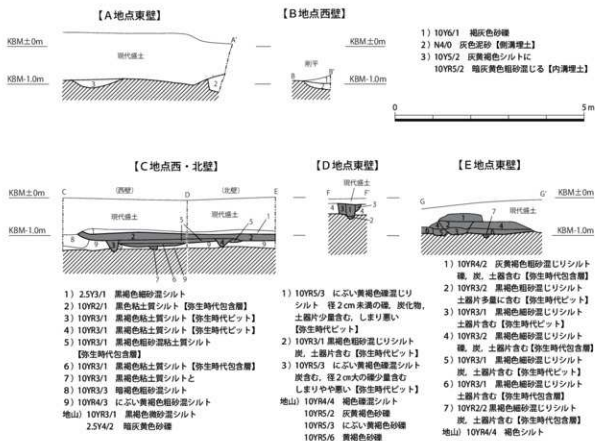


図37 詳細分布調査地点断面図 (1:100)



図38 C地点壁断面 (南東から)



図39 E地点壁断面 (北東から)

### 3 まとめ

以上、調査成果について記述した。今回の調査では、七条坊門小路北側宅地内の内溝を確認した。また衣田町遺跡内において居住域である可能性を示す遺構を複数検出した。調査地周辺は発掘調査事例が少ないことから、今回の調査報告は遺跡理解のための有益な情報を提供できたと考える。今後のさらなる周辺調査に期待したい。

(黒須亜希子)

引用文献

図34㊦:『京都市内遺跡試掘調査報告』平成30年度 京都市文化市民局 2019

## V-1 白河南殿跡,白河街区跡

### No.91 (19R760)

#### 1 調査経過

調査地は、琵琶湖疏水夷川ダムの南に位置する(図40)。平安時代後期に開発が進められた白河街区の西辺に相当し、嘉保2年(1095)5月に白河法皇が院御所とした「白河南殿」が想定される区画にあたる。今回、この地点に会社事務所の建設が計画されたため、試掘調査を実施した。

周辺では、市道を隔てた南側の区画において昭和55年度に発掘調査(図40①)が行われており、GL-1.0mの深度において平安時代後期の建物基壇2基が検出されている。また、東隣接地(図40②)では、GL-2.3mの深度において平安時代後期の基壇建物とこれに伴う整地層、地業、溝等が検出されている。このため、今回の調査においても連続する遺構の広がりが予測された。

調査地の現況は、北を通る冷泉通の標高が高く、北から南へ大きく下がる傾斜地である。調査はまずこの高低差を均した後、敷地のほぼ中央に東西方向の調査区を2箇所設定した(図41)。その結果、東側に設定した第2区の一部において、平安時代後期の遺構面を確認した。

#### 2 調査成果(図43)

敷地西半部に設定した第1区では、GL-1.6m(冷泉通側KBM-2.7m)まで既設建物の基礎による攪乱があり、その直下に褐灰色砂礫を主体とする地山を確認した。遺構面はすでに削平されており、遺構を確認することはできなかった。

敷地東半部に設定した第2区でも大規模な攪乱を認めたが、調査区東端の一部において包含層及び遺構面の残存を確認した。この地点では、

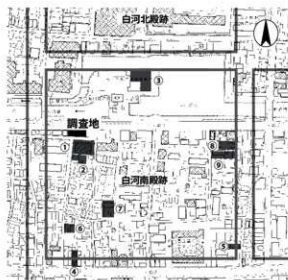


図40 調査位置図(1:5,000)

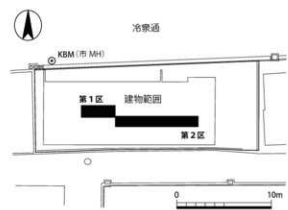


図41 調査地点位置図(1:400)



図42 遺構面検出状況(南から)

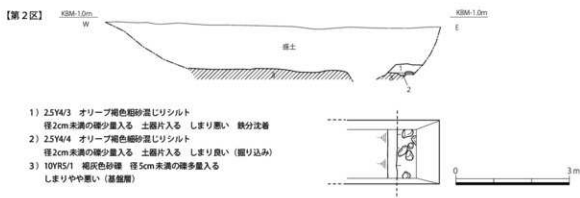


図43 遺構平・断面図(1:100)

GL-1.0mまで盛土、-1.15mまでオリーブ褐色粗砂混じりシルト(中世包含層)、以下、褐色砂礫(基盤層)が残存する。この地山上面において、南北方向に直線的にのびる掘り込み状の遺構を検出した。確認範囲は南北1.3m、東西0.5m程度、埋土は締まりの良いオリーブ褐色細砂混じりシルトを主体とし、径20cm未満の粒の揃った円礫を含む。一部を断ち割ったところ、土師器皿(12世紀)の小片が出土した。

この状況は、既往の調査②において検出された建物基壇の地業に近似している。報文によると、調査②で確認された地業の埋土は暗灰黄色泥砂を主体とし、径20cm未満の礫を多量に含む。南北方向に直線的にのびること、また東側に雨落溝とみられる遺構を伴うことから建物の東端にあたるかと推測されている。今回確認した掘り込み状の遺構も同じく地業跡と考えるならば、建物の西端となる可能性が高い。なお両者が連続する遺構であった場合、その東西距離は14m程度を測る(図44参照)。

### 3 まとめ

かつて白河南殿は、「白河泉殿」とも呼ばれ、方2町にわたる広大な敷地内に巨大な池泉を有していた。永久2年(1114)に、平正盛が敷地の西部にあった大僧正覚円の房舎を改めて阿弥陀堂を建立してからは「白河阿弥陀堂御所」とも呼ばれている。この阿弥陀堂は、9体の丈六阿弥陀仏を安置する規模をもつもので、蓮華藏院(三十三間堂)の前身とされる建物である(『中右記』『百練抄』)。大治5年(1130)にはさらに三重塔が建立されて隆盛したが、南北朝時代に焼失し、やがて荒廃した。

いま改めて周辺の既往の調査成果(図40)をみると、白河南殿範囲の北辺には殿舎・渡り廊下等が想定される礎石建物が検出された調査④があり、この付近にも建物群が展開したことが報告されている。また西半部では、南西辺にあたる調査⑤において二条大路末にあたる路面が検出されているほか、周辺の調査⑦でもGL-1.0m付近で地山が確認されるなど、安定した地盤の広がりを認めることができる。一方、東半部にあたる調査⑧⑨では、GL-1.9m～2.5mの深度において池の埋土が確認されており、周辺は低湿な地勢であったと推測される。

これらの情報をあわせると、敷地の北東部に「泉殿」の名の源となった池があり、この北及び西側に建物群が設けられていた状況を復原することができる。今回の調査地も建物群が展開したとき



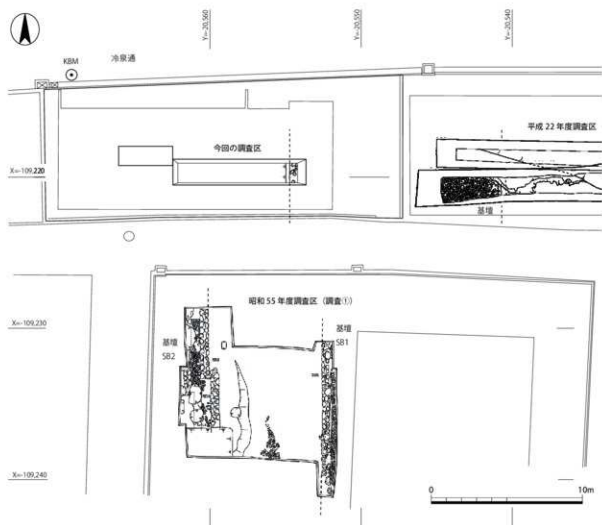


図44 遺構接合図(1:250)

れる北西部にあたり、地業や整地が行われた可能性は極めて高いと判断される。今回の調査は限られた範囲であるものの、周辺に建物群が連続するという認識を補強することができたといえる。

(黒須亜希子)

引用文献

- 調査①：「40白河南殿跡」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所2011  
 調査②・⑤：②「Ⅲ-2白河南殿跡No.15・67」『京都市内遺跡試掘調査報告』平成22年度 京都市文化市民局2011 ⑤ 同一一覧表  
 調査③：20「白河南殿跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所1983  
 調査④：『京都市内遺跡試掘調査概報』平成15年度 京都市文化市民局 2004 一覧表  
 調査⑥：『京都市内遺跡試掘調査報告』平成25年度 京都市文化市民局 2014 一覧表  
 調査⑦：『京都市内遺跡試掘調査報告』平成29年度 京都市文化市民局 2018 一覧表  
 調査⑧・⑨：『京都市内遺跡試掘調査報告』平成24年度 京都市文化市民局 2013 一覧表  
 「Ⅱ白河南殿C調査区」『六勝寺跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財調査センター 1981  
 「39 白河南殿跡」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2012

## V-2 法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡

### No.19 (19R005)

#### 1 調査の経緯

本件は左京区岡崎法勝寺町に所在する京都市動物園内のサルワールド再整備事業にともなう試掘調査である。調査地は京都市動物園の類人猿舎付近に位置し、法勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡に該当する。法勝寺は平安時代後期に天皇家の発願で建立された6つの寺院「六勝寺」の一つであり、白河天皇の発願によって造営された六勝寺の筆頭寺院とされている。

今回の調査地(図45)である京都市動物園の敷地は、法勝寺の南半分を占める。動物園内の調査は、昭和47年から本年に至るまで多数行われており、法勝寺の阿弥陀堂跡、及び園池跡や掘込地業跡などが確認されたことから伽藍配置の復元案が示されている。特筆される調査として、本調査地の北西側で平成24年に実施した八角九重塔周辺の調査がある(調査1)。この調査では平安時代後期の園池跡や八角九重塔基壇の掘込地業が確認された<sup>1)</sup>。また、平成15年の試掘調査でも平安時代後期の池跡が確認された(調査2)。検出遺構は設計変更によって地中に保存されている<sup>2)</sup>。

今回の調査は令和2年3月16～18日の3日間実施し、調査面積は計14㎡である。調査区

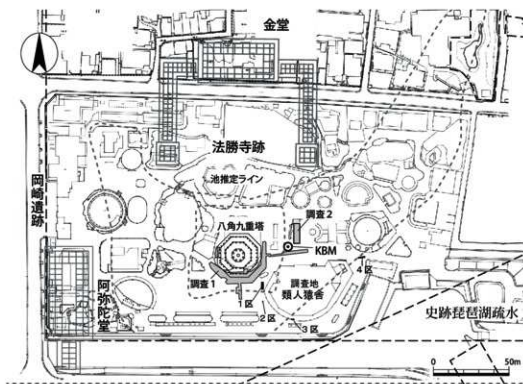


図45 調査位置図(1:2,500)

は法勝寺の園池の汀の確認を目的として、汀推定ラインにかかるように4ヶ所設けた。調査予定地はインターロッキングブロックが敷かれていたため、これを除去して掘削し、調査終了後、現状復旧を行った。

本報告は法勝寺に関連する遺構を確認した1区を中心におこなう。2区・3区は盛土のみで、4区は無遺物層と白川砂である地山の確認にとどまり、顕著な遺構の確認はできなかった。

## 2 層序と遺構 (図46～48)

1区は類人猿舎の西側に設けたが、北から南へ向かって掘削を行った。掘削当初、GL-0.5mで埋設管が確認されたため、それを外した場所で掘削を進めた。

層序は現代盛土以下、GL-0.9mでにぶい黄色ブロックを含む微砂(2層)、-1.1mで黒褐色泥砂(3層)を確認した。2層上面で遺構検出を行ったところ、南側に向かって下がる落込みの肩口を確認した。落込み埋土は暗灰黄色泥砂(1層)の単層で、30～50cmの石を含む。石は重なった状態で確認し、密度が高い。遺物は平安時代末期の土師器片が出土した。

## 3 まとめ

今回の調査では当初目的の汀は検出されなかった。しかし、南へ向かって下がる落込みを検出した。この落込みは30～50cmの石を含む暗灰黄色泥砂で埋められていた。埋土からは平

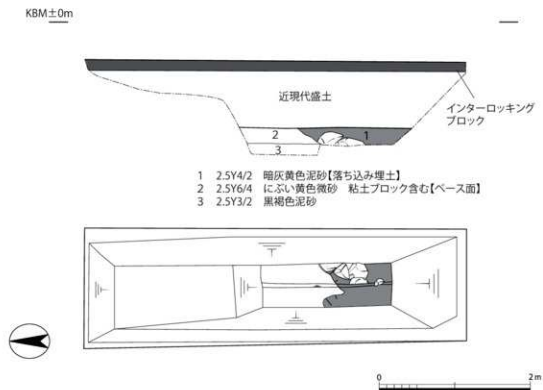


図46 1区平・断面図(1:50)



図47 遺構検出状況（北西から）



図48 1区断剖面（西から）

安時代末の土師器片が出土した。

今回の調査地は平成24年度に八角九重塔の基壇を確認した調査1の南近接地に位置している。調査1では、複数の掘込地業を確認している。その地業は掘り込みの連続により構築される一方で、地業と地業の間に掘り残しがあることを確認している。その掘り残しは隙間をつくることによって、地震による揺れを吸収することや湧水の通り道を確認するためと考えられている。

1区で検出した落込みは30～50cm大の石を含み人為的に埋められていた。地層の特徴や立地から法勝寺に伴う整地層の一部である可能性が高い。

今回の調査では法勝寺の地業と考えられる遺構が確認できた。遺構は設計変更により地中保存される。

（清水 早織）

註

- 1) 柏田有香「法勝寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告』平成22年度 京都市文化市民局 2011
- 2) 長谷川行孝「法勝寺跡」『京都市内遺跡調査概報』平成15年度 京都市文化市民局 2004

## V-3 史跡 南禅寺境内

### No.94 (2N043)

#### 1 調査の経緯

調査地は、左京区南禅寺福地町86、臨濟宗大本山南禅寺の勅使門東側である(図49)。

南禅寺では、平成31年3月に『史跡南禅寺境内保存活用計画書』を策定した<sup>1)</sup>。その過程で境内のあり方の課題として認識されたのが、中門から入って勅使門と三門の間を横切り北門へと通じる道路である。この道は近世の境内図にも描かれており<sup>2)</sup>、古くから境内を通り抜ける里道として使われていたようであるが、いつしかアスファルト舗装され、岡崎から永観堂方面への抜け道として24時間車輛の往来が可能となっている。とは言え今も公道や認定道路ではなく、純然たる寺有道である。にもかかわらず、禅宗寺院らしく一直線に並んだ勅使門—三門—法堂を結ぶ参道よりも、上位の道路であるかのように見えていることが、あるべき史跡、あるべき寺院の姿として問題視されたのである。

折しも令和3年に新管長の晋山式を予定する南禅寺では、この機会に、参道部分をアスファルトから石畳に変更することで、市民の往来の便宜は保ちつつ、本来の姿を明示する計画を立てた。しかるに、当該地では参道の遺構の存在が予想されるばかりでなく、義満期から応仁・文明の乱までは、この附近に三門があったと推定されているため<sup>3)</sup>、文化庁長官の現状変更許可条件として事前の調査を実施した。調査は、京都府文化財保護課より藤井整・北山大照両名の応援を得て令和2年10月7日に実施した。調査面積は9.8㎡である(図50)。



図49 調査位置図(1:5,000)

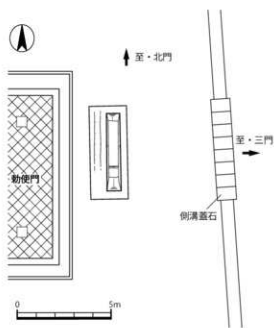


図50 調査地点位置図(1:200)

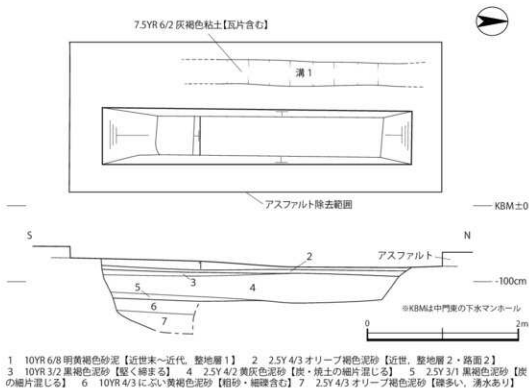


図51 調査区平・断面図（1：50）

## 2 層序と遺構（図51～53）

**層序** アスファルトをめくると、通常あるバラス層はなく、その直下が整地層1（1層）であった。後述するように上面は削平を受けていると考えられ、その残存厚は0.05～0.10mである。調査区を南北に縦断して埋設管による攪乱があったため、この部分を掘り下げて断面を観察したところ、次にGL-0.27mで整地層2（2層）を確認した。堅く締まったオリーブ褐色泥砂層で、上面には径数cmの小砂利が叩き込まれており、路面と考えられる（路面2）。

その下層、GL-0.35mで3層並びに4層に至る。4層は炭や焼土の細片が混じる暗灰黄色泥砂であるが、攪乱の東壁では様相が異なり、拳大の川原石を多量に含んでいた（図53）。上述のとおり当該地附近には一時期三門があったと推定されているため、その地業あるいは礎石根固めである可能性を検討したが、石どうしが噛み合っていないため、その可能性は低いと結論した。GL-0.60mには炭混じりの黒褐色泥砂層を認めた。4層とともに、数度にわたる焼亡記事との関係で興味深いところである。以下は粗砂を多く含むにぶい黄褐色泥砂層（6層）、オリーブ褐色泥砂層（7層）である。いずれも無遺物層であるが脆弱であり、7層からは湧水を見た。地山とするより、境内の東から流れる草川のもたらした土石流堆積層ではないかと考える<sup>9)</sup>。

**溝1** 整地層1の上面で検出した南北溝で、幅0.35m。断面形は皿形で検出面からの深さが0.06mほどとごく浅いことから、整地層1ともども削平を受けていると考えられる。埋土は粘質土で、近世もしくは近代の瓦片を多く含んでいた。粘性土で埋まっていることから、滞水気味であったと考えられる。南北道の西側溝か、あるいは瓦を含むことから見て勅使門の東雨落溝の可能性も



図52 調査区全景（北東から）



図53 覆乱東壁（北西から）

あるが、門の軒先よりも1.10mほど外側にあるため、いずれとも考えにくい。

**路面2** 2層の上面は堅く締め固められ、小砂利が叩き込まれていることから、路面と考えられる。しかし、南北道の路面であるのか、勅使門から三門へ延びる参道であるのかは不明である。また、遺物の出土がないため時代についても確定しがたいが、現状地盤と大きく変わらない深さにあることから、近世と考えておきたい。

### 3 まとめ

今回の調査では、2時期の整地層と、それらのうち下層のものの上面で近世かと思われる路面を確認した。生活道路となっているアスファルト舗装道を通行止めにはできないため、限られた面積となり、遺構の性格や年代を確定することはできなかったが、南禅寺境内における貴重な調査例として報告するものである。

なお、溝1を含め、検出遺構は地下保存して石畳を施工する予定である。

（堀 大輔）

#### 註

- 1 『史跡南禅寺境内保存活用計画書』宗教法人南禅寺 2020
- 2 南禅寺蔵「總境内坪数並緒建物之絵図」寛政元年（1789）（註1文献・図3-5）
- 3 高橋康夫「南禅寺の伽藍とその沿革」（註1文献、のち『京都と首里 古都の文化遺産研究』文理閣2020に再録）
- 4 この土石流層は、勅使門の西80mで行った発掘で地山としている砂礫層に対応する可能性がある（東洋一『史跡南禅寺境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-2（財）京都市埋蔵文化財研究所2009年）

## V-4 寺町旧域

No.96 (19S812)

### 1 調査に至る経緯

調査地は、四条通と河原町通の南西交差点に建つ高島屋京都店の西隣接地である(図54)。四条通が京内から鴨川へ抜ける往来の好立地にあたる。寺町の形成期(桃山期)には大雲院が築かれ、周辺に塔頭が存在した。今回、ここに高島屋店舗の増設が計画されたため、試掘調査を実施した。

周辺では、南隣接地において平成26年度に発掘調査が行われており(図54①)、平安時代から江戸時代の遺構面が確認されている。GL-0.3mで大雲院が存続した桃山期の遺構面に至り、土坑や石組みの井戸等の遺構が複数検出されている。また、東隣接地にあたる浄教寺境内では令和元年度に発掘調査が行われており(図54②)、平安時代後期～鎌倉時代、室町時代、安土桃山期～江戸時代の各遺構面が検出されている。このため、今回の調査においても連続する遺構面の存在が予測された。

調査地の現況は、南北方向に長い地割3筆に分かれており、既存建物に伴う改良杭やH鋼がその境に打設されていた。このため地割ごとに調査区を設定した(図55)。西側には第1区・第2区、中央には第3区・第4区、東側には第5区・第6区の計6箇所である。

### 2 調査成果(図56・57)

#### 層序・遺構

第1区では、GL-0.2mまで焼土(近世)、

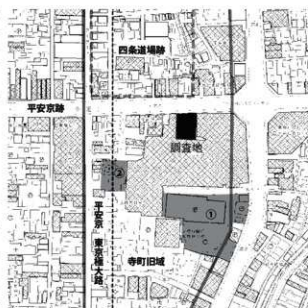


図54 調査位置図(1:5,000)

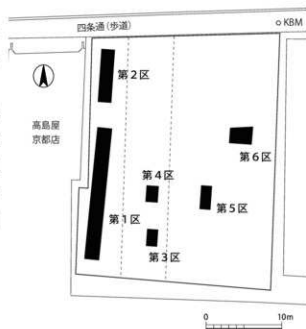
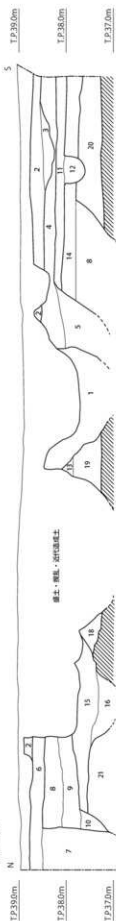


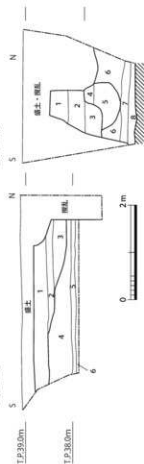
図55 調査区配置図(1:500)



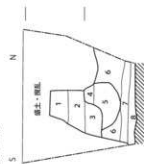
【第1区】



【第2区】



【第6区】



- 1) 25Y3/3 暗オリーブ褐色細砂混じりシルト  
土層片・瓦片入る しまり悪い
- 2) 25Y4/3 オリーブ褐色細砂混じりシルト  
径3cm未満の礫少量入る 土層片入る  
しまり悪い
- 3) 25Y3/1 黒褐色混濁じりシルト  
径3cm未満の礫少量入る しまり悪い
- 4) 25Y3/2 黒褐色混濁じりシルトに  
25Y4/4 褐色シルトブロック10%程度入る  
ややしまり悪い
- 5) 25Y4/4 オリーブ褐色細砂混じりシルト  
径3cm未満の礫少量入る (土層片)
- 6) 25Y4/3 オリーブ褐色混濁じりシルト  
径3cm未満の礫少量入る (土層片)

- 1) 25Y3/2 黒褐色細砂混じり粘土質シルトに  
暗オリーブ褐色細砂混じりシルトブロック10%程度入る 径1cm未満の礫少量入る
- 2) 25Y3/2 黒褐色細砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る 炭化物・陶磁器片入る しまり悪い
- 3) 25Y5/4 黒褐色細砂混濁じりシルトに
- 4) 25Y6/8 明黄褐色粘土質シルトブロック40%程度入る 炭化物・土層片入る しまり悪い
- 5) 5Y4/2 暗オリーブ褐色細砂混濁じりシルトに
- 6) 25Y3/2 黒褐色シルトブロック30%程度入る 径5cm未満の礫少量入る しまり悪い
- 7) 25Y3/2 暗オリーブ褐色細砂混濁じり粘土質シルト 炭化物・粘土・瓦片入る しまりや悪い
- 8) 25Y3/2 黒褐色細砂混濁じりシルト 径2cm未満の礫少量入る ややしまり悪い
- 9) 25Y3/2 暗オリーブ褐色細砂混濁じりシルト 径2cm未満の礫少量入る 陶磁器片入る  
ややしまり悪い
- 9) 25Y4/2 明灰黒色細砂混濁じりシルト 径2cm未満の礫少量入る やや軟質 ややしまり悪い
- 10) 25Y3/2 黒褐色細砂混濁じり粘土質シルト 炭化物・粘土入る やや軟質
- 11) 25Y3/2 黒褐色細砂混濁じりシルト 径5cm未満の礫少量入る 土層片入る ややしまり悪い  
(凍結固基盤層)
- 12) 25Y3/2 黒褐色細砂混濁じりシルト 径2cm未満の礫少量入る 横石入る (ピット)
- 13) 5Y4/1 灰色細砂～シルト 径3cm未満の礫少量入る
- 14) 25Y4/4 オリーブ褐色細砂混濁じり粘土質シルト 径3cm未満の礫少量入る ややしまり悪い  
やや軟質
- 15) 25Y3/3 暗オリーブ褐色細砂混濁じり粘土質シルト 径2cm未満の礫少量入る 軟質
- 16) 25Y3/3 暗オリーブ褐色粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い
- 17) 25Y3/2 黒褐色細砂混濁じり粘土質シルト しまり悪い
- 18) 25Y3/2 暗オリーブ褐色細砂混濁じりシルト～砂 しまり悪い
- 19) 5Y3/1 オリーブ褐色細砂混濁じりシルト 軟質 ややしまり悪い (凍結固基盤層)
- 20) 25Y3/1 黒褐色細砂混濁じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い
- 21) 25Y3/2 黒褐色粘土質シルト  
地山 25Y4/3 オリーブ褐色砂礫

図56 調査区断面図(1:80)

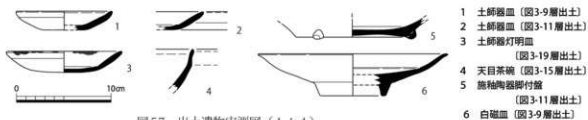


図57 出土遺物実測図(1:4)

-0.8 mまで暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト(近世包含層), -1.0 mまで黒褐色粗砂混じりシルト(近世遺構面基盤層①), -1.2 mまでオリーブ褐色粗砂混じりシルト(近世遺構面基盤層②), -1.8 mまでオリーブ黒褐色粗砂混じり粘土質シルト(中世包含層), 以下, 地山であるオリーブ褐色砂礫を確認した。ただし, 遺構面の検出は調査区南端のみであり, 遺構面の大半は近代の地下施設や焼瓦が充填された廃棄土坑などにより損なわれている。中世包含層上面において桃山期の土坑1基と, 江戸時代初頭の土坑2基を検出した。

第2区では, GL-0.2 mまで漆喰を含む整地層, -0.5 mまで暗オリーブ褐色粗砂混じりシルト(近世包含層), -1.0 mまで黒褐色礫混じりシルトがあり, その直下に黄褐色粘土をたたき締めた土間状の遺構2面を確認した。また, 長径0.4 mを測る平石(柱礎石か)を検出した。

第3～6区では, コンクリート基礎及び地中梁により, 大きく攪乱されていた。ただし第6区の南壁では部分的に土層が残存しており, GL-1.2 mまで黒褐色粗砂まじりシルト(近世包含層), -1.9 mまで暗オリーブ褐色礫混じりシルト～黒褐色礫混じりシルト(中世包含層), 以下, オリーブ褐色砂礫を主体とする地山を確認した。調査区南壁では, 中世包含層上面において成立する土坑を1基検出した。

### 遺物

遺物は土師器, 陶磁器が出土した(図57)。1～3は土師器皿である。1, 3は底面内部に圏線をめぐらせる。3は灯明皿で, 口縁部に煤が付着する。いずれも16～17世紀初頭の製品である。4は, 鉄軸を施した天目茶碗の口縁部である。5は施釉陶器の盤で, 外面底部付近に突起状の短い脚部を備える。外面は露胎, 内面は褐色釉を塗布する。6は白磁の皿で, 高台の先端に離れ砂が付着する。17世紀以後の製品である。

## 3 まとめ

今回の調査では, 寺町が整備された桃山期～近世初頭の遺構を一部確認した。限られた範囲ではあるが, 土層堆積の観察記録を周辺調査成果とつなぐことにより, その整合性を高めることができると考える。当該地域の土地活用の経緯を知る一情報として提示したい。(黒須亜希子)

### 引用文献

調査①:『寺町旧域 一貞安前之町における埋蔵文化財発掘調査報告書』イビソク京都市内遺跡調査報告 第10輯 (株)イビソク 2014

調査②:未報告「寺町旧域・平安京左京五条四坊十六町跡 発掘調査終了報告」古代文化調査会 2020

## V-5 大宅廃寺瓦窯跡

No.102 (20S163)

### 1 調査の経緯 (図58・59)

本件はグラウンド造成にともなう試掘調査である。調査地は大宅廃寺跡が見つかった大宅中学校の南に位置する丘陵で、周知の埋蔵文化財包蔵地「大宅廃寺瓦窯跡」に該当する。大宅廃寺瓦窯跡は大宅廃寺に瓦を供給していた窯として知られ、現在も窯体の一部が遺存している。今回の計画では、現存する窯体及び窯より北側の丘陵部分は開発されず保存されるため、調査は窯より南側の計画範囲内で埋没している窯や遺構などの有無を調べることを目的とし、令和2年10月12～15日に行った(図58・59)。



図58 調査地周辺の遺跡 (1 : 10,000)

### 2 過去の調査事例と地理

大宅廃寺瓦窯跡は大宅奥山の裾部に位置し、南北にのびる谷筋の西斜面に東向きに開口する窯1基が現存する瓦窯跡である。これまでの踏査では窯は1基しか確認されていない。谷筋は近現代に農業用の溜池となり、斜面地は長く竹林となっていた。西には奈良街道が通り、瓦を供給していた大宅廃寺は約500m北に位置する(図58)。

現存する窯は昭和60年代に橘女子大学考古学研究会<sup>1)</sup>や京都大学考古学研究会<sup>2)</sup>による踏査の報告がされている。これまでに採取された瓦数はあまり多くなく、現地にも瓦は散布していなかったため詳細は不明だが、雷文帯・複弁蓮華文軒丸瓦(図65)、偏行唐草文軒平瓦(図66)<sup>3)</sup>が大宅廃寺瓦窯の瓦として知られており、白鳳時代の窯



図59 調査位置図 (1 : 5,000)

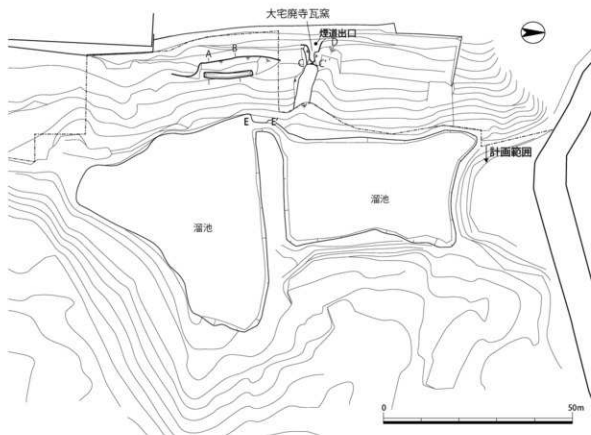
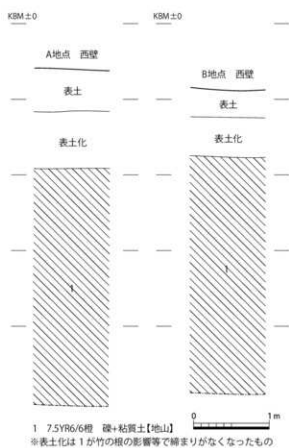


図60 調査区配置図 (1:2,500)

跡だと考えられてきた。現存する窯は窯尻から煙道部にかけてのみ残っている状態であるが、その範囲については天井も完存し、煙道部も良好に残っている。窯跡の名残をとどめる溝状の窪みから窯の範囲を推定すると、斜面地の中の急傾斜地に細長い窯体を持つ穴窯<sup>①</sup>(図64・67)であったと考えられ、この特徴からも窯が白鳳時代のもものと推測されていた。

### 3 遺構 (図60～63)

遺存する窯の現状を確認するためC地点周辺を精査し断面図を作成した(図62)。既存の情報と現存窯の高さなどを基準とすると、急傾斜地が比較的広く続く谷の西側斜面に、東向きに開口して窯が展開する可能性が想定された。施工計画範囲内ではかつい窯体をつ造ることが可能な傾斜面を中心にまずは表土の除去を行った



① 7.5YR6/6橙 礫+粘質土【地山】

※表土化は1が竹の根の影響等で締まりがなくなったもの

図61 A・B地点西壁断面 柱状図 (1:50)

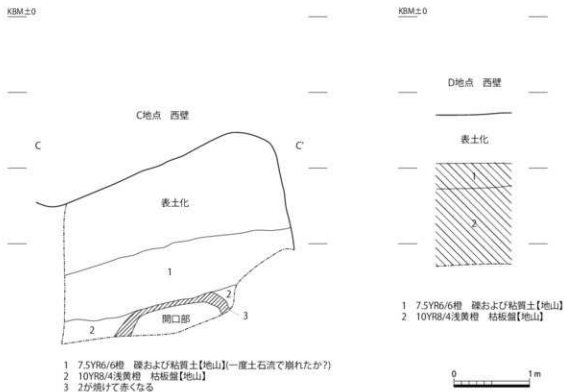


図62 C・D地点西壁断面 断面図・柱状図(1:50)

(図60A・B地点, 図版25-5)。この結果, 表土除去面では窯の痕跡を確認できなかった。そこで, 現存窯の天井高さまで地表を断ち割り, 窯の有無を確認することとした(図版25-6・7)。しかし, 断面には人為的な痕跡が確認できなかった。そこで念のため, さらに下層を確認した(図61, 巻頭写真2-2)。しかし顕著な遺構・遺物は確認できなかった。また, 現存窯体の北側に位置する攪乱部分(図60D地点, 図62)および, 北側の露出している地山部分についても精査を行ったが(巻頭写真2-1), 遺構・遺物は確認できなかった。

これらの結果から, 現存する窯の南側には他の窯は無かったと考えられる。

次に, 試掘調査時点で溜池であった範囲(図60E地点)の調査を行った。

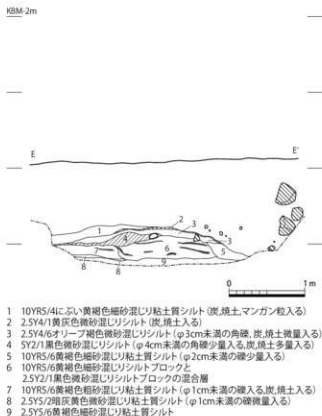


図63 E地点断面図(1:50)

現存する窯の灰原については、近現代の溜池造成時にかなり削平を受けており、これまでの踏査でも確認されていなかった。今回の調査では溜池の護岸部にあたるE地点で灰原の一端と推定される灰と炭の堆積層(図63層1~8)を確認した。遺物は出土しなかった(図版26・8・9)。

#### 4 まとめ

調査の結果、現存する窯の南側には窯は無かったことがわかった。今回の調査にあわせて東斜面を含む敷地全体を踏査したが、遺構・遺物は確認されなかった。

現存する窯体の北側範囲は先述のとおり開発されない予定であるが、丘陵裾部分については護岸擁壁を設置するために一部が掘削される。この範囲については施工時立会を指導した。工事は現在進行中で、報告したE地点と同様に灰原の一端を検出している。この成果については来年度報告の予定である。

(赤松 佳奈)

註

- 1) 『第5次山科分布調査遺跡台帳』橘女子大学考古学研究会1982
- 2) 堀大輔「第2節 大宅廃寺瓦窯跡」『第41とれんち』京都大学考古学研究会1989

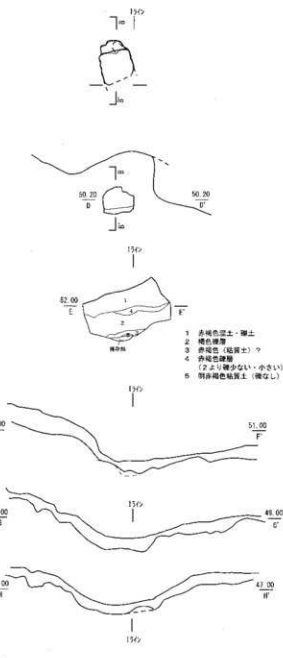


図64 大宅廃寺瓦窯跡 窯体平面・断面図  
(京都橘大学2010より転載(22頁)図15)



図66 表採軒平瓦(山科区大宅山田) 廣田1989より引用

図65 表採軒丸瓦(山科区大宅山田) 廣田1989より引用

- 3) 木村捷三郎監修・廣田長三郎編『古瓦図考』株式会社ミネルヴァ書房 1989
- 4) 松浦未春「第5章 大宅廃寺瓦窯跡地形測量調査及び窯体実測」『京都橘大学 文化財調査報告 2009』牧野車塚古墳・禁野車塚古墳・向山古墳・大宅廃寺瓦窯跡・山科本願寺跡 京都橘大学文学部 2010

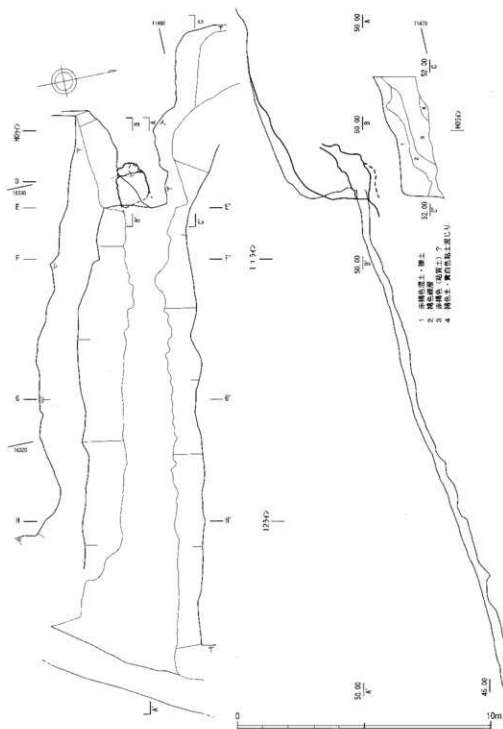


図67 大宅廃寺瓦窯跡 窯体平面・断面図 (京都橘大学2010より転載 (23頁図16))

## V-6 長岡京左京一条三坊十三町跡, 東土川遺跡

No.115 (19NG830)

### 1 調査の経緯

本件は、宅地造成に伴う試掘調査である。対象地は南区久世東土川町で、長岡京左京一条三坊十三町跡および東土川遺跡に該当する(図68)。十三町の中では東南部、東土川遺跡の西縁辺部にあたる。

調査地付近では、比較的多くの発掘・試掘調査が実施されている<sup>1)</sup>。十三町域内では、平成21年に試掘調査が実施されている(調査①)。この調査では地山上面で中世の土坑2基、弥生時代の溝2条、竪穴住居1基、土坑9基が確認されている。周辺では6件の発掘・試掘調査が実施されている。調査③・⑤・⑥・⑦では、長岡京期の掘立柱建物や井戸・柵列・条坊側溝等が確認されている。また、調査②・⑥・⑦では弥生時代の竪穴建物や方形周溝墓・溝・流路等が確認されている。これらの調査により、東土川遺跡では住居域・墓域・生産域がセットで確認されている点は特筆される。

本調査では周辺での調査事例を踏まえ、長岡京期の遺構の確認及び東土川遺跡に関する遺構の展開状況の確認を目的とした。なお、調査は6月12日に実施し、敷地内に設けられる道路予定地に調査区を設けた(図69)。

### 2 層序と遺構・遺物

本調査地はこれまで耕作地として利用されていた。西側に接する道路よりも約0.65mほど低く、敷地内はほぼ平坦である。

層序は、耕土直下のGL-0.1mで黄橙色シルトの地山となる。地山上面で検出を行った結果、弥生時代の土坑を1基のみ確認した(図70)。

土坑1：調査区西半で確認した。平面形は不

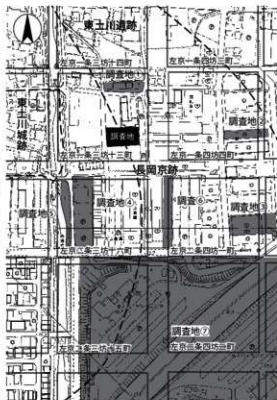


図68 調査位置図(1:5,000)

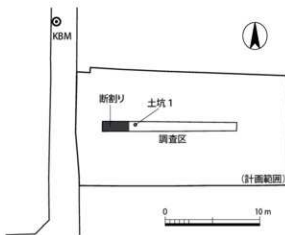


図69 調査区配置図(1:400)



定形である。規模は深さ0.15m以上、東西長0.78m、南北長0.77m以上で調査区北側へと続く。土坑の中央からは弥生土器の壺が出土した。出土した弥生土器は少なくとも2個体以上あり、一方は底部から頸部まで接合できるが、もう一方は底部の破片の一部しか確認できない。頸部まで接合できる個体は、おおよそ胴部の中央で割れており、下半部が正位置で西側、上半部が逆位で東側から並んで出土した。

図71の1は土坑1より出土した。外面はハケやナデで調整を行い、胴部上半から頸部にかけてはその上から刺突文、櫛描波状文、櫛描直線文が施される。内面にはナデやユビオサエが確認できる。内外面に煤が部分的に付着している。弥生時代中期と考えられる。

### 3 まとめ

今回の調査では、長岡京に関連する遺構・遺物は確認できなかったものの、弥生時代中期の土坑1基を確認した事で、希薄ながら当該地にも東土川遺跡が展開することを確認した点は重要な成果といえる。土坑1は単独であり、出土状況などから祭祀に関わる遺構の可能性も考えられるが、現段階ではその性格を断定しえない。今後の周辺での調査成果を待ちたい。

(熊井 亮介)

註

1) 以下、図68の調査№に対応。

調査①：「VI 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010

調査②：「V-7 長岡京左京一条四坊四・五町跡 東土川遺跡 No.112」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007

調査③：「VI 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成16年度』京都市文化市民局 2005

調査④：「VI 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局 2013

調査⑤：「21 長岡京左京二条三坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999

調査⑥：「長岡京左京二条四坊一町跡・東土川遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書」国際文化財株式会社 2018

調査⑦：「京都市遺跡調査報告書 第28冊」（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 2000

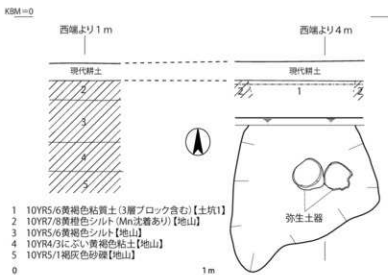


図70 調査区平・断面図(1:20)



図71 出土遺物実測図(1:4)

# V-7 長岡京左京三条四坊十二町・四条四坊九町・ 三条大路跡 No.126 (20NG271)

## 1 調査の経緯

本件は、宅地造成に伴う試掘調査である。対象地は伏見区久我西出町に位置し、長岡京左京三条四坊十二町、四条四坊九町、三条大路に該当する。近隣では8例の調査が行なわれており(図72)、調査5では三条大路南側溝と内溝、調査6では古墳時代の溝や長岡京期の三条大路両側溝や建物、柵、井戸、土坑、平安時代後期以降の溝群、調査7では弥生～古墳時代、長岡京期の遺構が確認されているが、その他では遺構密度は希薄である<sup>1)</sup>。今回の調査では、対象地南側で三条大路が想定できたため、調査5・6で確認されている三条大路関連遺構の確認および宅地内の利用状況の把握を目的として令和2年10月28・29日に行った。

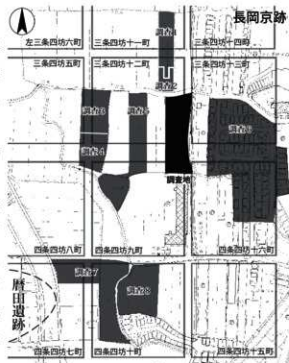


図72 調査位置図 (1:5,000)

## 2 層序と遺構 (図73～77)

今回の調査では、条坊部分(1区)と宅地部分(2区)の2か所に調査区を設けた(図73)。

両区とも基本層序は、現代耕土の下、近世から近代の旧耕土を挟み、GL-0.8～-1.0mで黄褐色粘質シルトの地山にいたる(図75・断面1)。遺構検出は地山上面で行ない、条坊部分では北東-南西方向の溝(溝1)と東西方向の溝(溝2・3)を確認した(図74・77)。溝1は不定形の溝で、幅0.3～1.4m、深さ0.2mで、長岡京期の須恵器が数片出土した。溝2は幅1m、深さ0.3mで、溝1により一部削平されている。溝3は幅1m、深さ0.3mである。溝2の埋土は暗灰黄色粘質シルト、溝3の埋土は暗灰色粘質シルトである(図75・断面2・3)。遺構配置から、溝2が三条大路南側溝、溝3は三条大路北側溝と考えられる。両側溝芯々間の距離は約24.1mである(図74)。この他、宅地部分では中世以降の南北方向の耕作溝を数条確認したが、瓦器片や土師器片がわずかに確認できたのみである。



図73 調査区配置図 (1:2,000)

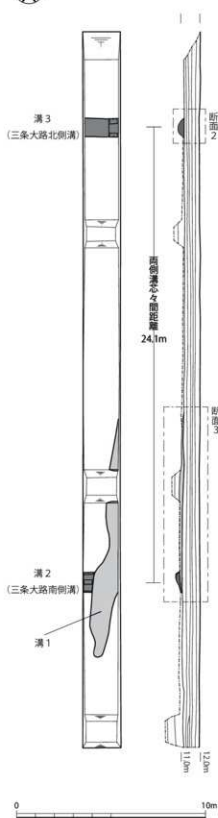


図74 1区平面・東壁断面図(1:200)

### 3 まとめ

今回の調査では、三条大路南側溝と北側溝と考えられる東西方向の溝を2条確認した。これらの溝は、調査5の三条大路南側溝、調査6の三条大路両側溝の延長と考えられる(図76)。対象地周辺の調査1~4や調査8では、遺構が希薄もしくは確認されていない。調査6では条坊遺構や建物、柵、土坑などが確認されているが、いずれの遺構深度も0.2m程と浅く、周辺では遺構深度が浅い傾向がある。今回の調査でも条坊関係遺構以外の遺構は確認できず、確認できた溝2・3は調査6で確認されている条坊側溝と同じく、遺存状況が良いとは言えない。周辺調査成果から、遺構が希薄であるのか中世以降の削平を受けたために遺跡が希薄となっているのかについては判断がつかず、長岡京左京域については今後も注視する必要がある。

(奥井 智子)

#### 註

1) 以下、図68の調査No.に対応。

調査1:『V 試掘調査一覧表:No.127』『京都市内遺跡試掘調査報告平成28年度』京都市文化市民局 2017

調査2:『VI 試掘調査一覧表:No.120』『京都市内遺跡試掘調査報告平成22年度』京都市文化市民局 2011

調査3:『VI 試掘調査一覧表:No.106』『京都市内遺跡試掘調査報告平成20年度』京都市文化市民局 2009

調査4:『IV 試掘調査一覧表:No.122』『京都市内遺跡試掘調査報告平成22年度』京都市文化市民局 2011

調査5:『V 試掘調査一覧表:No.109』『京都市内遺跡試掘調査報告平成19年度』京都市文化市民局 2008

調査6:『66 長岡京左京三条・四条四坊』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011

調査7:『IV 試掘調査一覧表:No.26』『京都市内遺跡試掘調査報告平成22年度』京都市文化市民局 2011

調査8:『VI 試掘調査一覧表:No.107』『京都市内遺跡試掘調査報告平成20年度』京都市文化市民局 2009

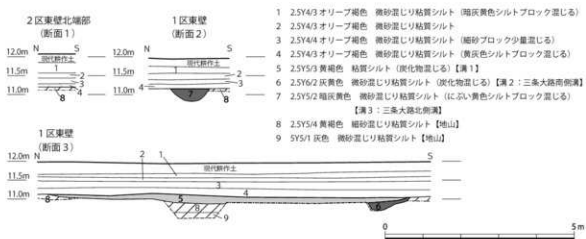


図75 各調査区東壁断面図 (断面 1～3) (1 : 100)

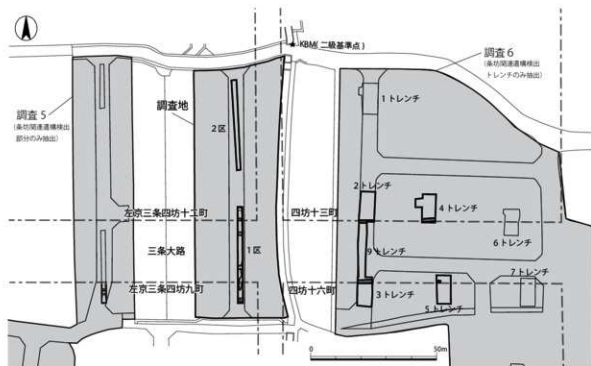


図76 周辺調査成果と調査地 (1 : 1,500)



図77 三条大路北側溝 (断面 2) (西から)

表1 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク点数 (箱数)	Cランク点数 (箱数)	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	99点 (5箱)	弥生土器1点, 土師器71点, 須恵器5点, 黒色土器1点, 緑釉陶器4点, 白色土器6点, 瓦器2点, 施釉陶器6点, 国産磁器1点, 輸入陶磁器2点	1箱	8箱	14箱

## VI 試掘調査一覧表

令和2年 1～3月

### 平安宮

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
1	内蔵寮	上京区下長者通土屋町西入二本松町4-11, 4-12	3/10	GL-0.6mで地山と考えられる締りのある黒褐色砂礫混じり粘質土を確認。大半が土取穴で擾乱を受ける。	15㎡	19K603
2	内裏温明殿跡・聚楽第跡・聚楽遺跡	上京区下立売通智恵光院西入下丸屋町498	3/23・24	調査地北西部では、GL-1.5mの深度で整地層(橋山期か)を確認。ただし、一部にとどまる。	13㎡	19K745
3	陰陽寮・朝所跡	上京区千本通二条下る東入主税町953	2/3	GL-1.1mで黄褐色砂礫もしくは暗褐色砂礫の地山。大半に現代擾乱が及んでおり、遺構・遺物は確認できず。	32㎡	19K492

### 平安京左京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
4	二条三坊四町跡	中京区西洞院通夷川下る薬師町644・同区夷川通西洞院東入泉町661-3	1/29	GL-0.8mと-1.2mで新田2時期(平安時代末と室町時代)の西洞院川東岸を検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	46㎡	19H538
5	四条一坊一町跡・朱雀大路跡	中京区壬生朱雀町25-3ほか	3/5・6	GL-0.9mで近世堆積層、-1.1mで暗褐色粗砂混じりシルトを主体とする朱雀大路路面を確認。東側溝と見られる南北方向溝を複数検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	83㎡	19H659
6	四条一坊四町跡・朱雀大路跡	中京区壬生御所ノ内町40-3, 40-4	2/10	GL-1.0mで黒褐色粘土、-1.2mでオリブ褐色砂礫の地山を確認。	46㎡	19H631
7	四条二坊十五町跡・本能寺城跡	中京区油小路通六角下る六角油小路町343-1, -2	1/9	GL-1.3mで暗灰黄色細砂(整地層)、-1.4mで明黄褐色シルト(整地層)を確認。明黄褐色シルト上面で中世の土坑を確認。全体的に遺存状況が不良。	33㎡	19H517
8	五条一坊七町跡	中京区壬生賀陽御所町49, 50-1	3/11・12	GL-0.6～-0.7mで整地層の可能性のある黒褐色シルト、-0.8～-0.9mで地山の黄褐色シルトを確認。遺存状況が不良。	61㎡	19H595
9	八条四坊六町跡	下京区下之町ほか	2/12・13	GL-1.0mで泥濘堆積を確認。	98㎡	19H674
10	九条三坊八町跡・烏丸町遺跡	南区東九条室町48	3/31	GL-0.6mで灰色粘土の近世包含層、-0.7mでオリブ黒色の中世包含層、-0.9mで黄灰色泥砂、-1.0mで暗灰黄色砂礫、-1.1mでオリブ色砂礫の地山を確認。 <b>発掘調査を指導。本文18ページ。</b>	18㎡	19H589

### 平安京右京

番号	遺跡名	住所	調査日	調査概要	面積	受付番号
11	六条四坊十四町跡	右京区西京極野田町39	3/27	GL-1.2mで湿地状堆積と思われるシルト～微差層、-2.9mで河川堆積の砂礫層を確認。遺構・遺物は確認できず。	11㎡	19H597

12	七条一坊二町跡	下京区朱雀分水町26-2の一部、27-2の一部	2/4	GL-0.9～1.0mの黄褐色泥砂の地山上面で近世以降の土坑を1基確認。遺物は確認できず。	35㎡	19H688
13	七条二坊七町跡・西市跡・衣田町遺跡	下京区西七条石ヶ坪町71、72、73-2	2/6	GL-0.5～0.7mで明黄褐色シルトや砂礫の地山上面で七条坊門小路の北側溝および整地層を確認。後の詳細分布調査で弥生時代後期土坑群を検出。本文27ページ。	60㎡	19H531
14	九条二坊四町跡・唐橋遺跡	南区唐橋大宮尻町22	3/9・11	GL-1.0mで平安時代以降の遺物包含層、-1.2mでシルトの地山。	156㎡	17H809

#### 太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
15	草木町遺跡	右京区鳴滝中道町18-5ほか4筆	1/15	CL-0.8mで深い黄褐色粘質土、上面で室町時代の溝、ピットなどを確認。	17㎡	19S424
16	森ヶ東瓦窯跡・和泉式部町遺跡	右京区太秦和泉式部町6-1、7-2	1/23・24	CL-1.7mで旧耕土、-2.2mでの砂礫の地山。遺構は確認できず。	131㎡	19S612
17	上ノ段町遺跡・多敷町遺跡	右京区太秦多敷町19の一部、19-13の一部、1-6の一部	1/14	CL-1.5mで褐色シルトの地山を確認。	19㎡	19S361

#### 北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	発面積	受付番号
18	史跡聖護院旧仮皇居・白河街区跡	左京区聖護院中町15	3/11・12	CL-0.7mで室町時代整地層。整地層上面で小ピット、溝等を確認。	4㎡	1N089
19	法勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町(京都動物園)	3/16～18	CL-0.7mで法勝寺の地業の祠と考えられる落込みを確認。本文33ページ。	14㎡	19R005

#### 洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
20	法性寺跡	東山区本町20丁目440-2ほか	2/7	CL-0.8～1.4mで明黄褐色シルトの地山。遺構・遺物は確認できず。	11㎡	19S703

#### 烏羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
21	烏羽離宮跡・烏羽遺跡	伏見区竹田真幡本町152	1/10	CL-0.7mで灰色シルト、-1.0mで灰色粘土、-1.2mで暗灰色細砂、-1.5mで灰色粘土。遺構・遺物は確認できず。	23㎡	19T309

#### 長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
22	長岡京京三条四坊八町跡	伏見区久我西出町7-13ほか	2/26～28	CL-1.6mで長岡京街道横面を検出。東西方向の耕作溝を2条検出。	106㎡	19NG577
23	長岡京京五条三坊十二町跡	伏見区羽東跡古川町389-1、807	3/26	CL-0.8mで旧耕土、-0.9mで旧道路の堆積土層、-1.4mで地山の砂礫層を確認。	10㎡	19NG720

24	長岡京左京九条二坊十四町跡 ・淀水垂大下津町遺跡 ・興禪神社旧境内	伏見区淀水垂町ほか 地先	1/22	GL-1.5m以下、湿地状堆積を確認。顕著な遺構・遺物は確認できず。	30㎡	19NG505
25	淀城跡	伏見区淀木津町 195-5	1/20	GL-1.4mで湿地状堆積とみられる灰色シルト、-1.8m以下は河川堆積。	7㎡	19S480

#### 南桂川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
26	市名勝浄住寺の庭・ 市指定浄住寺文化財環境保全 地区・浄住寺（谷之堂）跡	西京区山田開キ町 9-1	3/3	方丈南庭の池の調査にて、止水の為の灰白色粘土が池底全面に貼られていることを確認。	4㎡	19A010
27	中久世遺跡	南区久世中久世町 730、731、732、 733-1、733-2	2/25	GL-2.2～-2.5mで水田耕作土（時期不明）を確認。遺構・遺物は希薄。	29㎡	19S459



令和2年 4月～12月

平安宮

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
28	大蔵省跡	上京区仁和寺街道 千本東入西富仲町 470-33、-42、-43、 -44	10/22・ 23	GL-1.5mでオリーブ色砂礫を確認。聚楽第 外濠の可能性あり。	42㎡	20K078
29	真言院跡	中京区聚楽廻西町 165-1	6/19	GL-0.7mで明黄褐色シルトの地山を確認。	11㎡	20K179
30	太政官朝所跡・聚楽遺跡	上京区千本通二条 下る東入主税町1030	7/3	GL-0.5mで平安時代後期～鎌倉時代遺構 面、-0.9mで平安時代遺構面を検出。包 含層には多量の瓦、土器、陶器類が含まれ る。本文3ページ。	28㎡	20K118
31	太政官跡・民部省跡・ 聚楽遺跡	上京区千本通二条 下る東入主税町 825-1の一部	4/7	GL-0.6mで黄色シルトの地山を確認。顕著 な遺構なし。	16㎡	19K626
32	右馬寮跡	中京区西ノ京右馬寮 町 8-6、8-20	9/29	GL-0.5mで明黄褐色粘質土（礫混）の地山 を確認。	19㎡	20K369
33	朝堂院永寧堂跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町 24-13、24-14、 24-15	9/7	GL-0.2mまでアスファルトを含む現代盛土 -0.4mで黒褐色細砂混じりシルト、以下、 に深い黄褐色砂礫～シルトを主体とする地 山を確認。永寧堂に関連する遺構・遺物は 確認できず。	16㎡	20K172
34	史跡旧二条離宮（二条城）・ 侍従別跡・雅楽寮跡	中京区二条通堀川 西入二条城町541	9/14	重要文化財建物の礎石、掘方の状況を把握 した。顕著な遺構や遺物はなし。	3㎡	2N042
35	兵部省跡	中京区西ノ京内郡町 25-8	11/9	GL-0.4mで黄色シルトの地山を確認。顕著 な遺構・遺物は確認できず。	44㎡	20K396
36	兵部省跡	中京区西ノ京内郡町 34他	4/1	GL-1.3～2.1mで地山を確認。	45㎡	19K513

平安京左京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
37	一条北辺三坊八町跡・ 公家町道跡	上京区京都御苑 3	9/14	GL-0.3mで江戸時代後期の遺構面を確認。 遺構の地中保存を協議中。	5㎡	20H108
38	一条北辺四条五・六町跡・ 公家町道跡	上京区京都御苑 3	9/16	GL-0.4～0.5mで固く締まる褐色微砂の遺 構面を確認し、上面で江戸時代後半の遺物 をともなう柱穴や礎石を伴う柱穴や石を多 数掘りこんだ土坑などを確認。遺構の地中 保存を協議中。	37㎡	20H109
39	一条四条坊十町跡・ 公家町道跡・京都新城跡	上京区京都御苑 3	12/2	GL-0.15mで近代整地土、-0.5mで近世整 地土、-0.9mで近世整地土。発掘調査を指 導。	23㎡	20H383

40	三条二坊十一町跡・ 堀川御池遺跡	中京区堀川通姉小路 上る三坊堀川門62-1 他5筆・堀川通東入 親治町170他1筆	5/8	敷地南端で2期の姉小路北側溝を検出。	19㎡	20H037
41	三条四坊九町跡	中京区二条通柳馬場 東入明町662-2、 664	6/15	GL-1.6mでふい黄色砂礫の地山を確認。	22㎡	20H011
42	四条一坊三町跡	中京区壬生御所ノ内 町13	10/7	GL-0.6mで灰色泥砂の平安時代中期～後 期の整地土、-0.9mで黄灰色泥砂の平安 時代前期整地土、-1.2mでふい黄色微 砂の地山。 <b>発掘調査を指導。本文6ペー ジ。</b>	16㎡	20H249
43	四条三坊十五町跡・ 烏丸御池遺跡	中京区六角通烏丸 東入堂之前町234	9/24～ 28	GL-1.7mで近世遺構面、-2.2mで室町時 代遺構面(地山)を確認。 <b>本文10ページ。</b>	21㎡	20H282
44	五条二坊八町跡・ 妙満寺の構え跡	下京区堀川通四条 下る四条堀川門257 他	9/9	GL-0.4mで暗灰黄色泥砂の中世の整地層、 -0.7mで灰オリーブ色砂泥の平安時代中期 の整地層、-0.9mで黒褐色シルトの平安時 代前期の整地層、-1.1～-1.4mで褐灰色シル ト～にふい黄褐色細砂～中砂の地山 を確認。遺構面は4面確認。 <b>発掘調査を指 導。</b>	54㎡	20H154
45	五条三坊十六町跡・ 烏丸綾小路遺跡	下京区東洞院通四条 下る元愿王子町51、 46-1、46-3・同区 竹屋之町250-1	4/6	GL-1.3mで地山上面を検出。既設建物による 覆灰のほか、近世末～近代の井戸により 遺構面は大きく損なわれる。	21㎡	19H816
46	六条三坊十五町跡	下京区東洞院通五条 上る深草町586他	7/10	GL-1.5mで近世遺物包含層とみられる黒褐 色シルト、-1.8mで基盤層の灰オリーブ色 砂礫。遺構・遺物は確認できず。	12㎡	20H096
47	六条三坊十六町跡・ 烏丸綾小路遺跡	下京区烏丸通松原 下る五条烏丸町 404-2、同区不明門 松原下る吉永町 449-3ほか4筆	5/11	GL-0.9mまで焼瓦層、-1.4mまで江戸時代 包含層、-1.7mまで室町時代包含層、-2.2 mまで鎌倉時代包含層。以下、暗灰黄色砂 礫(地山)。溝1条(五条大路の南側 溝?)とピット1基(室町時代)を検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	35㎡	19H525
48	七条二坊十四町跡	下京区正面通西源院 西入植松町344-1他	10/19	GL-0.8m以下で平安時代から中世の遺構面 を4面確認。 <b>遺構を地中保存。</b>	31㎡	20H434
49	七条三坊十五町跡	下京区龜町地内	4/22	GL-1.3mでオリーブ黒色泥砂の室町時代包 含層、-1.8mで灰オリーブ色泥砂の平安時 代の包含層、-2.1mで暗灰黄色砂礫の地山 を確認。 <b>遺構を中保存。</b>	16㎡	20H031
50	八条四坊十一町跡	下京区川端町、 下之町、東之町、 西之町、上之町	7/28	GL-1.6mで褐色粘質シルトの旧耕土、-1.7 mで黄灰色微砂、-1.8mで黄灰色砂礫～シル ト、-1.9mでオリーブ褐色砂礫の河川堆 積を確認。	34㎡	20H204

平安京右京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
51	一条三坊六町跡	中京区西ノ京伯楽町4-6の一部、同区馬代町3-3の一部	9/1	GL-0.5mで現代盛土、-0.7mで近世耕作土、-0.9mで馬代小路路面、以下、地山を確認。地山上面において大型遺構を検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	33㎡	20H298
52	一条三坊十四町跡	右京区花園賀南町17-2、17-4	7/30	対象地南側でGL-0.5mで暗褐色シルトの地山を確認。地山上面で平安時代末の遺構を確認。 <b>本文21ページ。</b>	64㎡	20H256
53	一条四坊二町・七町跡	右京区花園木辻北町1-1の一部他2筆・同区花園妙心寺町1-5他5筆	5/27・28	GL-0.4～-0.5mで明黄褐色粘質土～砂礫の地山を確認。地山上面で近世の遺構群を多数確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	140㎡	19H470
54	二条二坊三町跡	中京区西ノ京冷泉町1	12/3・4	GL-0.9mで平安時代の遺構を検出。 <b>設計変更を協議中。</b>	20㎡	20H281
55	三条二坊五・十二町跡・御土居跡・西ノ京遺跡	中京区西ノ京北小路町	8/24～26・12/17	GL-1.2m以下、湿地状堆積。3トレンチで平安時代前期の土坑を確認。 <b>本文24ページ。</b>	48㎡	20H027
56	三条二坊七町跡・西ノ京遺跡	中京区西ノ京原町66	10/21	GL-0.8mで平安時代の遺物を含むオリーブ黒色泥砂層を確認。	61㎡	20H340
57	四条一坊十町跡・壬生遺跡	中京区壬生神明町1-61	11/26・27	GL-1.0～-1.1mで旧耕土、-1.4～-1.5mで平安時代前期の遺物を多く含む黒褐色粘質シルトやオリーブ褐色粘質シルトの湿地状堆積、-1.7～-1.9mで明オリーブ灰色粗砂～シルトの地山。	106㎡	20H081
58	四条二坊十三町跡	右京西院賀町38-2他	10/5	GL-0.5mで黄灰色砂泥の平安時代整地層、-0.8mで灰白色シルトの地山。 <b>発掘調査を指導。</b>	22㎡	20H044
59	四条三坊三町跡	右京西院春日町3-1他	5/12～14	GL-0.3mで近代盛土、-0.4mで旧耕作土、-0.5mで旧床土、-0.6mで土師器を含む暗灰黄色泥砂の中世遺物包含層、-0.7mで明黄褐色シルトの地山。 <b>発掘調査を指導。</b>	39㎡	19H777
60	五条一坊十二町跡	中京区壬生松原町61-1の一部、61-5、62-1、62-4	9/10	GL-1.0mでオリーブ褐色細砂、-1.1mで褐色シルト細砂、-1.3mで褐色中砂～砂礫を確認。褐色シルト細砂上面で幅1.5mの溝状の断面を確認。	40㎡	20H100
61	五条二坊十五町跡	右京区西院北矢掛町39-2他	9/28	GL-0.8mで遺祖川の流路を確認。	42㎡	20H171
62	五条四条十一町跡・西京極遺跡	右京区西院安塚町83	4/13	GL-0.8mで暗灰黄色粘質土（焼締陶器片）、-1.0mで黄褐色粘質シルト、-1.4mでふい黄色粘土、-1.6mで明黄褐色粘土の湿地状堆積を確認。遺構や遺物は確認できず。	38㎡	19H554

63	五条四坊六町跡・西京極遺跡	右京区西院安塚町99-1	4/17	GL-1.2mで灰オリーブ色シルト、-1.4mで黄褐色粘質土。灰オリーブ色シルト上面で平安時代と思われる柱穴を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	32㎡	19H604
64	六条一坊二町跡・御土居跡	下京区中堂寺北町10-3の一部、14-1、14-3	5/19・7/22	GL-0.7mでオリーブ褐色砂礫、-1.2mで粗砂～砂礫、-1.5mで灰色砂礫、-1.7mで明黄褐色シルトの地山。遺構・遺物はなし。	92㎡	20H062
65	六条一坊三町跡・御土居跡	下京区中堂寺南町130-1の一部	8/11	GL-0.6～-1.2mで暗灰黄色シルトまたは、暗オリーブ灰色粘土の埋理土、-2.1～-2.3mで黄褐色砂礫の地山。 <b>発掘調査を指導。</b>	60㎡	19H620
66	六条二坊十二町跡	右京区西院東中水町17・下京区西七条御前田町4	9/2	GL-0.5mで中世耕作土、-0.8mでオリーブ褐色砂礫の地山。地山直上で西堀川を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	71㎡	20H223
67	六条三坊一・二町跡	右京区西院西寿町21他	11/30	GL-0.8m灰オリーブ細砂上面で樋口小路両側を検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	52.2㎡	20H416
68	六条三坊十二町跡	右京区西院西清崎町27、31	4/27・5/18	GL-0.9～-1.2mで平安時代や鎌倉時代の土師器細片がわずかに混じる湿地状堆積を確認。	49㎡	19H798
69	六条四坊六町跡・西京極遺跡	右京区西京極東大丸町21	7/1	GL-0.3mで暗灰黄色粗砂混じりシルト（地山）を確認。遺構は確認できず。	32㎡	20H127
70	六条四坊十一町跡	右京区西京極東大丸町8	8/18	GL-1.3～-1.6mで灰色粘土の湿地状堆積を確認。	70㎡	19H486
71	七条一坊二町跡・御土居跡	下京区朱雀分木町80-2の一部	11/17	GL-0.8mで黒褐色シルト上面で溝やヒットなどの遺構を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	20㎡	20H462
72	七条二坊十五町跡	下京区西七条比輪田町16-1	9/30	GL-0.8mまで現代盛土・耕作土、-1.0mまで黄褐色細砂混シルト（近世耕土か）-1.3mまで黄褐色極細砂～シルト、以下シルト～細砂・砂礫の水成堆積層	54㎡	20H144
73	七条三坊十三町跡	右京区西京極大門町26の一部	11/16	GL-2.3mでにぶい黄褐色泥砂、-2.9mで暗灰黄色泥砂の湿地状堆積、-3.4mで黄灰色砂礫の地山を確認。	22㎡	20H054
74	八条一坊十五町跡	下京区西七条西久保町16	12/22	GL-0.3mで黒褐色泥砂の時期不明の整地層、-0.5mで黄褐色の地山を確認。	34㎡	20H466
75	九条一坊十一町跡・唐橋遺跡史跡西寺跡	南区唐橋西寺町57	7/29	GL-0.4mで西寺跡遺構面。顕著な遺構、遺物なし。	1.5㎡	1N091

## 太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
76	史跡 仁和寺御所跡	右京区御室大内33	7/20	顕著な遺構や遺物確認できず。	10㎡	2N003
77	史跡・名勝嵐山・嵯峨遺跡	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町4 5-37、38、55	10/5	GL-0.6mで中世の遺構を検出。	18㎡	2N038

## 洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
78	中の谷窯跡	左京区岩倉木野町137-1他43筆	6/26	GL-07mで明褐色粘質砂礫の地山を確認。	40㎡	20S089
79	上賀茂中山町遺跡	北区上賀茂中山町17、22	6/1	GL-0.5mで近現代耕作土。以下、地山を確認。	62㎡	19S764
80	小野瓦窯跡	左京区上高野尾保地町1-2の一部	7/20	GL-1.0mで褐色砂質土の地山を確認。	24㎡	20S239
81	史跡 賀茂別雷神社境内	北区上賀茂本山339	8/26・11/19	GL-0.2mで近世以前の参道を検出。参道は二の鳥居から橋殿へ向かうもので幅5m、幾層も白色砂層で整備されていた。	37㎡	2N004
82	史跡 賀茂別雷神社境内	北区上賀茂本山339-1	4/17	GL-0.8mで整地層を検出。	14㎡	1N099
83	室町殿跡(花の御所)・上京遺跡	上京区丸久通今出川上る岡松町255	11/13	GL-1.5mで江戸時代前半の遺物を含む黒褐色泥砂、-1.7mで時期不明の遺物包含層、-1.9mで地山の明黄褐色シルトを確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	36㎡	20S337
84	公家町遺跡	上京区京都御苑3	9/15	GL-0.4～-0.6mで炭化物や焼土の火災痕跡のある灰黄褐色泥砂、-0.4mで掃りのあるにふい黄褐色泥砂の遺構面を確認。 <b>遺構の地中保存を協議中。</b>	10㎡	20S 107
85	史跡 大徳寺境内	北区大徳寺町74の一部	11/16	GL-0.3mで江戸時代以前のピットを検出。 <b>設計変更により遺構を地中保存。</b>	39㎡	1N 104
86	上京遺跡・世尊寺跡	上京区五辻通大宮西入五辻町54他9筆	6/4	GL-1.2mで室町～江戸時代の遺構面を確認。土坑、溝を検出。 <b>遺構を地中保存。</b>	56㎡	20 S 129
87	北野庵寺・北野遺跡	北区北野下白梅町16-2	6/8	GL-0.3mで整地層と思われる黒褐色シルトや黒色シルト、-0.6mで地山の褐色シルトを確認。顕著な遺構・遺物はなし。	15㎡	20S112

## 北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
88	一乗寺向畑町遺跡	左京区一乗寺向畑町49	6/25	GL-1.4mで黒褐色砂質土、-1.5mで黄灰色粗砂、-1.7mで黄灰色細砂～粗砂、-2.0mで黄灰色粗砂、-2.3mで灰白粗砂～砂礫の地山を確認。	30㎡	20S093
89	史跡聖護院旧仮皇居・白河街区跡	左京区聖護院中町15	5/19・20	GL-0.4mにて近世包含層を確認。	6㎡	1N089

90	白河北殿跡・白河街区跡	左京区聖護院川原町11-19, 11-20	4/10	GL-1.3m以下氾濫堆積を確認。遺構・遺物希薄。	19㎡	19R753
91	白河南殿跡・白河街区跡	左京区聖護院蓮華蔵町44-3	4/24	解体雑乱により、遺構面の削平が著しい。敷地東端では建物基壇付近の敷石とみられる礎群を検出。本文30ページ。	19㎡	19R760
92	白河南殿跡・白河街区跡	左京区聖護院蓮華蔵町20-4, 20-5	8/17	GL-2.2mで近世陶磁器を含む暗灰泥土。-2.7mで暗オリーブ色砂礫の地山を確認。	16㎡	20R006
93	法興院跡	中京区中筋通夷川上る鐘田町294-1他2筆, 同区河原町通夷川上る指野町343, 344	6/24	GL-0.6mで暗灰黄色粗砂シルト, -1.1mでオリーブ褐色礫混じりシルト, -1.3mでオリーブ褐色礫混じりシルトの近世包含層, -1.4mでオリーブ褐色粗砂～砂礫の河川堆積を確認。	27㎡	20S008
94	史跡 南禅寺境内	左京区南禅寺福地町86	10/7	GL(舗装面) -0.1mで近世末～近代の整地層, -0.20mで近世路面。本文36ページ。	10㎡	2N043

#### 洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
95	粟田口竈跡	東山区三条通白川橋東入三丁目表町175-2他	4/30	GL-3.0mで黄褐色シルトの地山。遺構・遺物は確認できず。	76㎡	19S803
96	寺町旧城	下京区四条通寺町東入御旅町35	4/20	GL-0.3mまで近世～近代焼土, -0.5mまで近世包含層, -1.8mまで室町時代包含層および基盤層, 以下, 地山を確認。桃山期の土坑, 室町期の土坑を検出。本文39ページ。	56㎡	19S812
97	六波羅政庁跡	東山区大黒町五条上る音羽町320, 321他	12/21	GL-1.7mで浅黄色細砂の近世整地層, -1.8mで灰オリーブ色細砂, -2.2mでオリーブ黒色泥砂, -2.4mで暗灰黄色細砂の地山を確認。	37㎡	20S476
98	六波羅政庁跡・方広寺跡	東山区妙法院前側町431	5/29	GL-1.9mで黄褐色砂礫の地山を確認。R元年試掘調査成果をふまえ、 <b>発掘調査を指導</b> 。	9㎡	18S799
99	鳥部(辺)野・法性寺跡	東山区今熊野本多山町1他	11/2	GL-0.3mで明黄褐色シルトの地山。	36㎡	20S262
100	中臣遺跡	山科区東野森野町45-2, 46-2・3・4	6/10	GL-0.4～0.5mで地山の黄褐色シルトを確認。地山上面でピットや溝などを確認。 <b>遺構を地中保存</b> 。	33㎡	20N160
101	大宅廃寺・大宅遺跡	山科区大宅中小路町38-1	6/3	GL-1.0～1.2mで南から北へ下がる地山を確認。明確な遺構は検出できず。	19㎡	20S059
102	大宅廃寺瓦竈跡	山科区大宅向山14-1, 14-2, 14-3	10/12～15	<b>窯体部は保存</b> 。施工範囲では遺構・遺物は検出されなかった。本文42ページ。	100㎡	20S163

## 伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
103	番神山古墳	伏見区深草極楽寺町72	11/10	GL-0.5mで黄褐色粘土～微砂の地山を確認。古墳に係る遺構・遺物はなし。	33㎡	20S355
104	がんせんどう廃寺	伏見区深草谷口町57-2の一部他	10/20	GL-0.3mで明黄褐色～黄褐色粘質土（黄灰色粘質土をブロック状に含む）、-1.6mで黒褐色粘質土の盛土。	3㎡	20S175
105	史跡醍醐寺境内	伏見区醍醐醍醐山8	4/14	GL-0.1mにてオリブ褐色泥砂礫混じりの盛土。顕著な遺構・遺物はなし。	15㎡	1N074
106	伏見城跡・桃陵遺跡	伏見区福島大夫北町52	4/2・3 6/16・ 17・8/4 ・13	GL-0.6mで伏見城の造成土。この上面でピットを確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	236㎡	19F791
107	伏見城跡	京都市伏見区新町六町目478、479	8/7	GL-1.2～1.4mで明黄褐色粘質土の地山。遺構・遺物は確認できず。	16㎡	20F146
108	伏見城跡	京都市伏見区片桐町1	10/26・ 12/7・ 8・ 12/14・ 15	GL-0.6mで伏見奉行所及び伏見城関連遺構を確認。 <b>取り扱い協議中。</b>	70㎡	16F275

## 烏羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
109	御土居跡	南区四ツ塚町89-3他	6/29	GL-1.5mまで盛土。-2.5mで近世後期の河川を確認。	79㎡	20S121
110	深草遺跡	伏見区深草西浦町4丁目78他	5/1	GL-2.2mでオリブ黒色シルト、-2.6mで黄灰色細砂を確認。遺構・遺物なし。	48㎡	20S021
111	烏羽離宮跡	伏見区竹田真幡木町93	9/18	GL-0.8 m以下湿地状堆積。	24㎡	20T343
112	烏羽離宮跡、烏羽遺跡	伏見区中島堀端町10、11	10/9	GL-1.2mでしまりの良いオリブ褐色細砂混じりシルトの薄層（整地層）を確認。烏羽離宮造成時の遺構面と推測される。	13㎡	20T128
113	久我東町遺跡	伏見区久我東町6-18	10/8	GL-1.2mまで耕作土および洪水砂の相互堆積が連続。以下、暗オリブ色微砂混じり粘土質シルト（地山）を確認。明確な遺構は確認できず。	43㎡	20S 214
114	富ノ森城跡	京都市伏見区横大路六反畑他 地内	7/13・ 15・ 11/4・5	GL-0.5mで室町時代までの包含層、-0.8mで中世包含層、-1.0mで暗灰黄色シルトに至る。 <b>発掘調査を指導。</b>	332㎡	19S 683

## 長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
115	長岡京左京一条三坊十三町跡・東土川遺跡	南区久世東土川町331	6/12	GL-0.2mで黄褐色シルト(地山)を確認。この上面で弥生時代の土坑を1基確認。本文47ページ。	42㎡	19NG830
116	長岡京左京一条四坊九町跡	伏見区久我石原町7-6, 7-29	9/23	現代耕土・床土以下、湿地状堆積で顕著な遺構・遺物は検出されず。	56㎡	20NG367
117	長岡京左京二条四坊五町・十二町跡	伏見区久我西出町1-9・10・11・12・13	7/6・7	GL-1.2～-1.4mで地山の黄褐色シルトを確認。東半で地山直上において溝や土坑等を確認。遺構を地中保存。	147㎡	20NG084
118	長岡京左京二条四坊五町・十二町跡	伏見区久我西出町1-9・10	7/9	GL-0.8mで旧耕土と思われる土層が続き、-1.1mで地山と思われる黄灰色シルト～細砂。	76㎡	20NG083
119	長岡京左京三条四坊八・九町跡	伏見区久我西出町1-16他	11/24・25	GL-1.1mで耕作土、-2.0mで明黄褐色シルトの地山。	75㎡	20NG258
120	長岡京左京四条三坊二町跡	伏見区羽東師菱川町402, 403	8/27	GL-1.1m以下砂礫、-1.9m以下灰色シルト～粘土の湿地状堆積を確認。	19㎡	20NG015
121	長岡京跡東京極大路	伏見区久我森ノ宮町6-27, 6-28, 6-29	11/19	GL-0.2mでにぶい黄褐色泥砂、-0.6mでにぶい黄褐色極細砂～細砂、-0.7mでにぶい黄褐色細砂、-0.8mで灰黄色シルト、-1.1mで緑灰色シルト～粘土を確認。にぶい黄褐色細砂上面で幅1.7mの溝状断面を確認。	55㎡	20NG287
122	長岡京左京八条三坊九町跡・九条二坊十六町跡・淀水垂大津道跡	伏見区淀水垂大津町地先～羽東師地先	8/3	GL-5.3mまで近世包含層を確認。遺構は確認できず。	24㎡	20NG231
123	長岡京左京九条四坊十三町跡	伏見区葦島渡場島町32	11/12	GL-0.6mまで盛土・改良がり、以下-4.2mまで細砂や粘土からなる氾濫・湿地状堆積を確認。	13㎡	20NG348
124	長岡京左京九条四坊十四町跡	伏見区葦島渡場島町32	6/22・23	GL-2.4m～-3.1mまで灰オリーブ細砂～灰白色粗砂の氾濫・湿地状堆積を確認。	29㎡	20NG125
125	長岡京右京八条四坊十六町・東京極大路	伏見区横大路西海道2-1他5筆・河区納所大野50, 53-2	4/16	GL-2.9～-3.2mで遺物を含まないオリーブ灰色粘質シルトを確認。	21㎡	19NG801
126	長岡京右京三条四坊十二町・四条四坊九町跡・三条大路	伏見区久我西出町13-17, 13-18	10/28・29	GL-0.8～-1.0mで黄褐色粘質シルトの地山上面で、三条大路の両側溝を確認。本文49ページ。	136㎡	20NG271

## 南桂川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
127	史跡・名勝嵐山	西京区嵐山上海道町75, 76	4/20	GL-0.6mで明褐色シルトの包含層、-0.8mで褐灰色粘土の地山。顕著な遺構や遺物は確認できず。	46㎡	1N100



128	史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山谷ヶ辻子町21-5の一部、21-6、22-1の一部、23の一部	5/15	顕著な遺構や遺物はみられなかった。	41㎡	1N108
129	上久世遺跡	南区久世上久世町419	7/2	GL-0.8mで鎌倉時代～室町時代のピット、大溝、土坑、根石を備える柱穴等を検出。うち大溝は、上久世城跡の西限となる可能性が高い。発掘調査を指導。	56㎡	20S087
130	中久世遺跡	南区久世中久世町三丁目35-1、35-3	10/1	GL-0.2mで黄灰色粘質土を確認。	34㎡	20S352
131	中久世遺跡	南区久世大蔵町73	12/24	GL-0.6mで黄褐色泥砂の耕土、-0.8mで黄褐色細砂、-1.1mで黄褐色微砂を確認。	32㎡	20S474
132	中久世遺跡	南区久世殿城町137、146の一部	4/8	GL-0.2mで明黄褐色粘質シルトの地山を確認。	61㎡	19S588

京北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
133	周山庵寺	右京区京北周山町中山51他	7/27	GL-0.2mで地山の黄褐色砂礫を確認。遺構・遺物は確認できず。	58㎡	17S734

# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしゅつちょうさほうこく れいわにねんど							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原主太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・黒須亜希子・清水早織							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮 太政官御所跡 聚楽遺跡	京都市上京区 平本通二条下る主税町 1030	26100	2 237	35度 01分 01秒	135度 44分 43秒	2020/7/3	28㎡	共同住宅
平安京左京四条 一坊三町跡	京都市中京区 壬生御所ノ内町13	26100	1	35度 00分 16秒	135度 44分 38秒	2020/10/7	16㎡	公園整備
平安京左京四条 三坊十五町跡 烏丸御池遺跡	京都市中京区 六条通烏丸東入 堂之前町234	26100	1 464	35度 00分 26秒	135度 45分 43秒	2020/9/24 ～28	21㎡	店舗
平安京左京九条 三坊八町跡 烏丸町遺跡	京都市南区 東九条室町48	26100	1 759	34度 59分 02秒	135度 45分 26秒	2020/3/31	18㎡	店舗
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮 太政官御所跡 聚楽遺跡	都城跡 集落跡	平安時代 前期～中期	ピット・整地層	土師器・須恵器 緑釉陶器・瓦 黒色土器				
平安京左京四条 一坊三町跡	都城跡	平安時代	溝 溝・土坑・井戸	須恵器				
平安京左京四条 三坊十五町跡 烏丸御池遺跡	都城跡 集落跡	室町時代 江戸時代	土坑	土師器・須恵器・瓦器 陶磁器・染付				
平安京左京九条 三坊八町跡 烏丸町遺跡	都城跡 集落跡	平安～鎌倉時代	整地層	土師器 白磁 須恵器		平安～鎌倉時代の 遺物が多量に出土		

# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきくつちようさほうこく れいわにわんど							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正児・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・黒須亜希子・清水早織							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池地下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京右京一条三坊十四町跡	京都市右京区花園興南町17-2, 17-4	26100	1	35度01分12秒	135度43分31秒	2020/7/30	64㎡	共同住宅
平安京右京三条二坊五町十二町跡、御土居跡、西ノ京遺跡	京都市中京区西ノ京北小路町	26100	1 149 461	35度00分32秒	135度43分59秒	2020/8/24 ～26	48㎡	市営住宅 建替え
平安京右京七条二坊七町跡、西市跡、衣田町遺跡	京都市下京区西七条西石ヶ坪町71, 72, 73-2	26100	1 714 713	34度59分29秒	135度44分03秒	2020/2/6	60㎡	共同住宅
白河南殿跡、白河街区跡	京都市左京区聖護院蓮華蔵町44-3	26100	417-7	35度00分55秒	135度46分28秒	2020/4/24	19㎡	事務所
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京一条三坊十四町跡	都城跡	平安時代	土坑・ピット	土師器		平安時代の遺構群を確認		
平安京右京三条二坊五町十二町跡、御土居跡、西ノ京遺跡	都城跡 散布地	平安時代	土坑	緑釉陶器 土師器 黒色土器 須恵器				
平安京右京七条二坊七町跡、西市跡、衣田町遺跡	都城跡 市場跡 集落跡	弥生～古墳時代 平安時代	土坑 溝	土師器 須恵器				
白河南殿跡、白河街区跡	邸宅跡	平安時代後期	地業跡	土師器				

# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくちゅうさほうこく れいわにねんど							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・黒須亜希子・清水早織							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
法勝寺跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	京都市左京区 岡崎法勝寺町	26100	417-1 417 418	35度 00分 45秒	135度 47分 12秒	2020/3/16 ～18	14㎡	動物舎
史跡南禅寺境内	京都市左京区 南禅寺福地町86	26100	A 321	35度 00分 40秒	135度 47分 38秒	2020/10/7	10㎡	参道整備
寺町旧域	京都市下京区 西条通寺町東入 御旅町35	26100	170	35度 00分 12秒	135度 48分 06秒	2020/4/20	56㎡	店舗
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
法勝寺跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	寺院跡 集落跡	平安時代	地業			法勝寺の地業跡を確認		
史跡南禅寺境内	史跡	中世～近世	路面			近世の参道路面を検出		
寺町旧域	寺院跡	桃山～ 江戸時代初頭	土坑 礎石	土師器・陶磁器				

# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきくつちようさほうこく れいわにわんど							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正兄・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・黒須亜希子・清水早織							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下丸屋町394番地 Y・J-Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大宅庵寺瓦窯跡	京都市山科区 大宅向山 14-1, 14-2, 14-3	26100	637	34度 57分 54秒	135度 49分 17秒	2020/10/12 ～15	100㎡	グラウンド 造成
長岡京左京一条 三坊十三町跡・ 東土川遺跡	京都市南区 久我東土川町331	26100	3 783	34度 56分 46秒	135度 43分 13秒	2020/6/12	42㎡	宅地造成
長岡京右京三条 四坊十二町跡・ 西条四坊九町跡 ・三条大路跡	京都市伏見区 久我西出町 13-17, 13-18	26100	3	34度 56分 10秒	135度 43分 30秒	2020/10/28 ～29	136㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大宅庵寺瓦窯跡	瓦窯跡	奈良時代	窯					
長岡京左京一条 三坊十三町跡・ 東土川遺跡	都城跡 集落跡	弥生時代	土坑	弥生土器		弥生時代中期の 土器埋納土坑を 1基礎認		
長岡京右京三条 四坊十二町跡・ 西条四坊九町跡 ・三条大路跡	都城跡	平安時代	三条大路北側溝 及び南側溝	瓦器 土師器				